

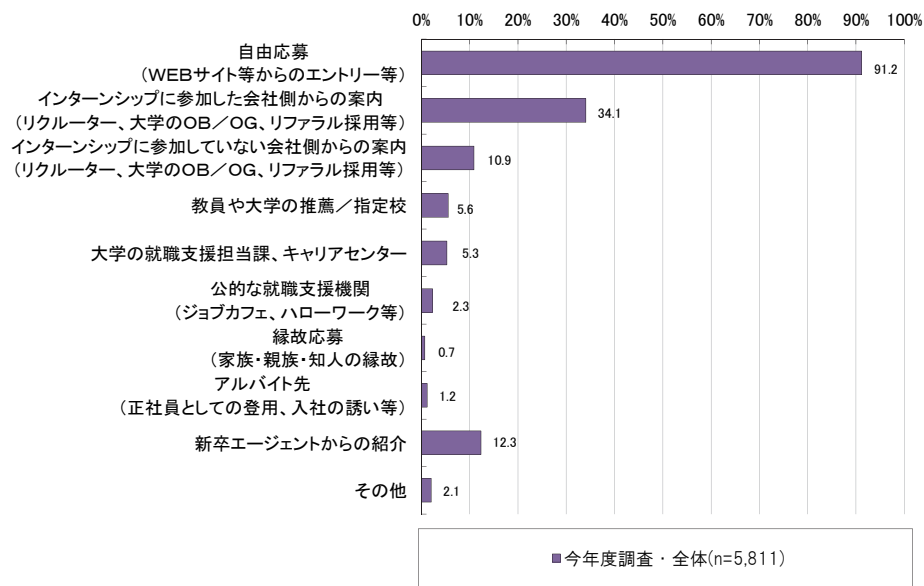
(7) 採用試験・面接等を受けた経路

①全体の状況

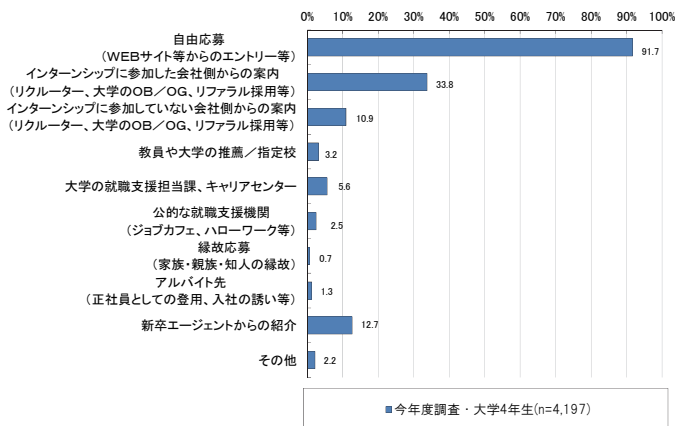
どのような経路で採用試験・面接等を受けたか⁴⁴について、「自由応募（WEBサイト等からのエントリー等）」が約9割、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」が約3割、「新卒エージェントからの紹介」と「インターンシップに参加していない会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」がそれぞれ約1割となっている。

選択肢が異なるため厳密な比較はできないが、2018年度調査と比較すると、「会社側からの案内」の回答割合が上昇している可能性がある。

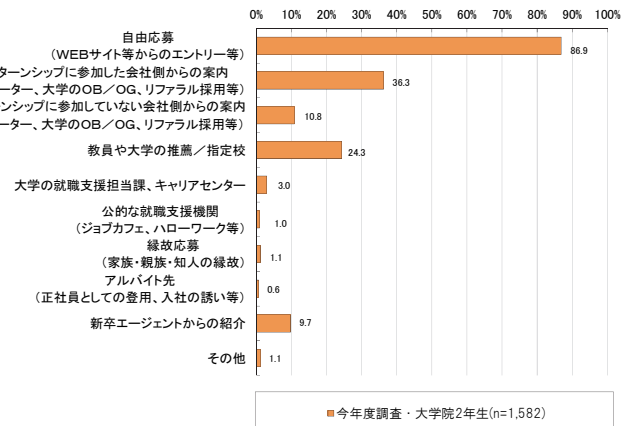
図表 3-7-1 採用試験・面接等を受けた経路（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



(大学4年生)

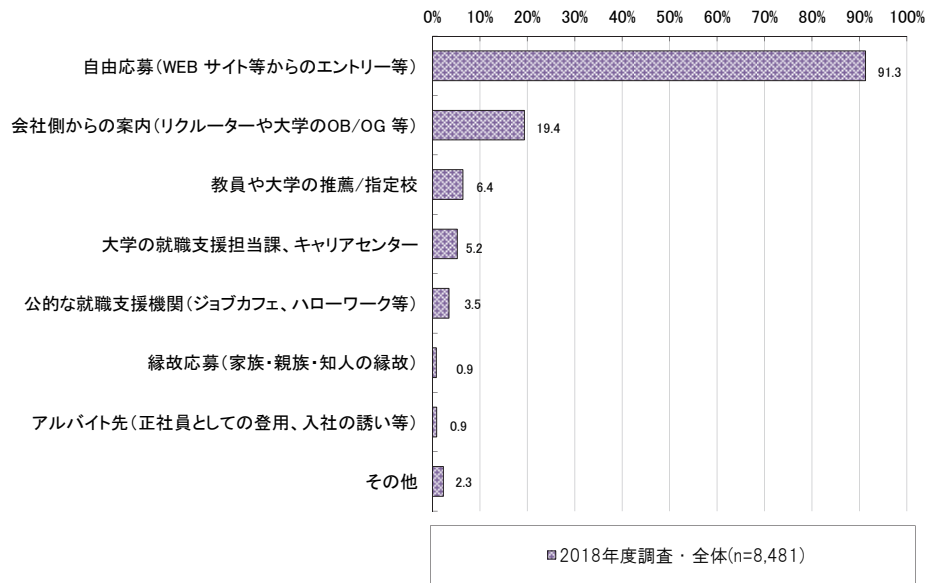


(大学院2年生)

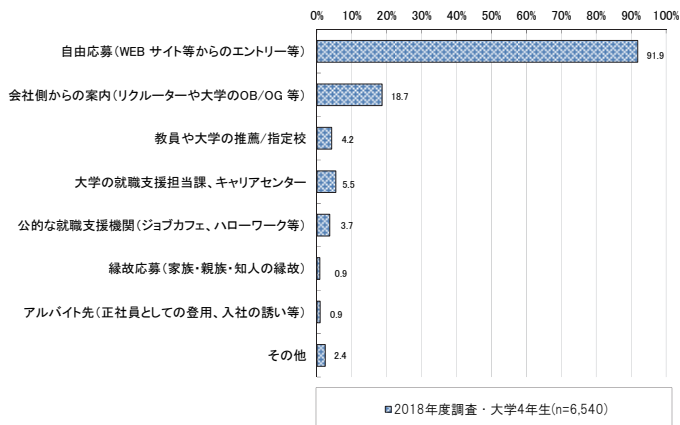


⁴⁴ 同内容の調査項目は2016年度調査～2018年度調査でも設定しているが、選択肢として設定している項目が異なることから、ここでは直接的には比較の対象としなかった。なお、今年度調査の実施にあたり、「リクルーター」「リファラル採用」「新卒エージェント」には用語説明を付した。

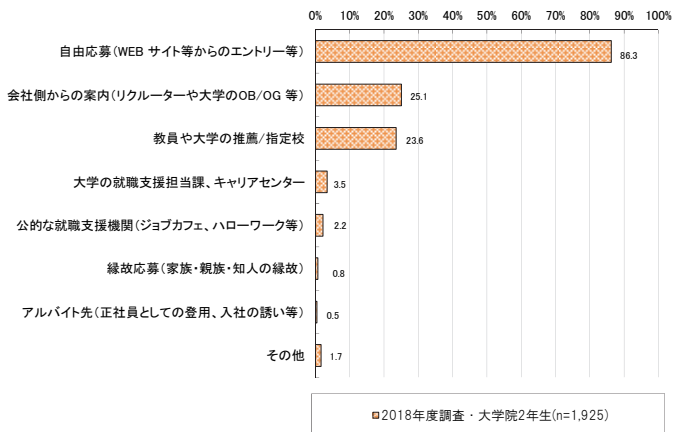
図表 3-7-2 2018 年度調査、採用試験・面接等を受けた経路（複数回答）
（大学 4 年生・大学院 2 年生）



（大学 4 年生）



（大学院 2 年生）



②内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路

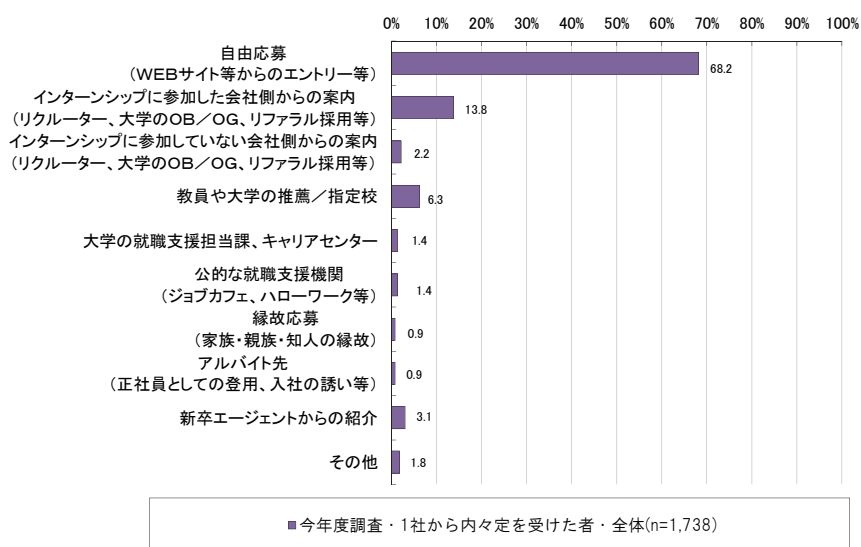
どのような経路で内々定を受けた企業の採用試験・面接等を受けたか⁴⁵について、1社から内々定を受けた者では、「自由応募（WEB サイト等からのエントリー等）」の割合が約7割、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクルーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」と「教員や大学の推薦/指定校」が約1割となっている。

複数社から内々定を受けた者でも、「最初の内々定」、「就職予定の企業の内々定」とともに「自由応募（WEB サイト等からのエントリー等）」の割合が最も高いが、両者を比較すると、「就職予定の企業の内々定」の方が若干高い。

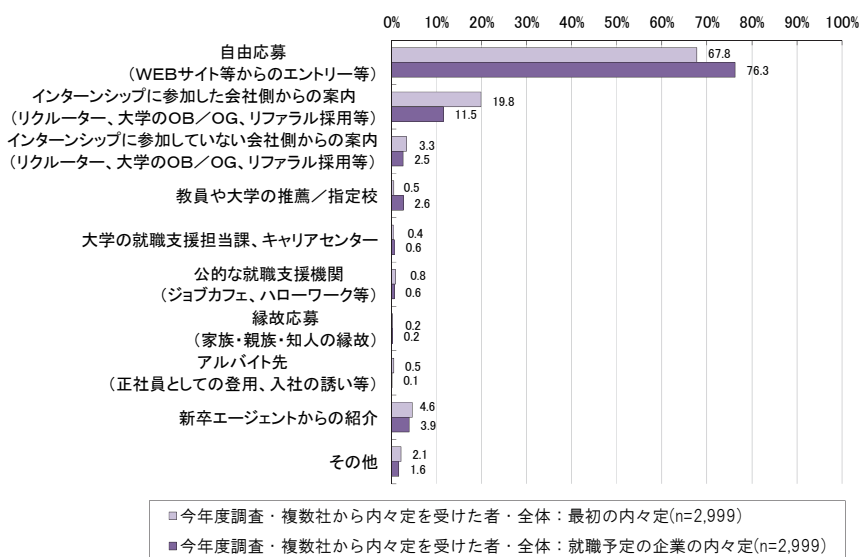
図表 3-7-3 内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路

（大学4年生・大学院2年生）

<1社から内々定を受けた者>



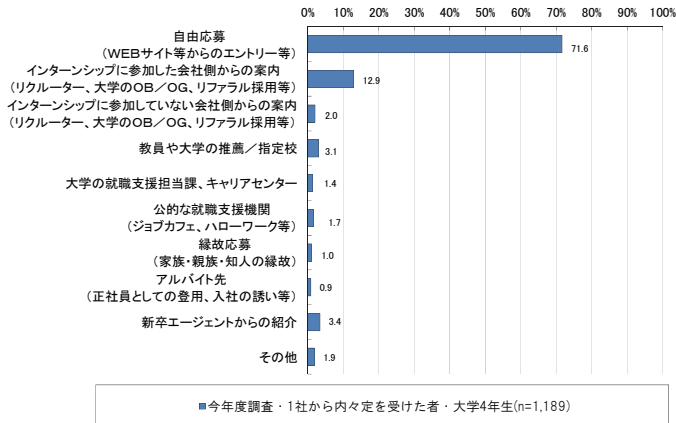
<複数社から内々定を受けた者>



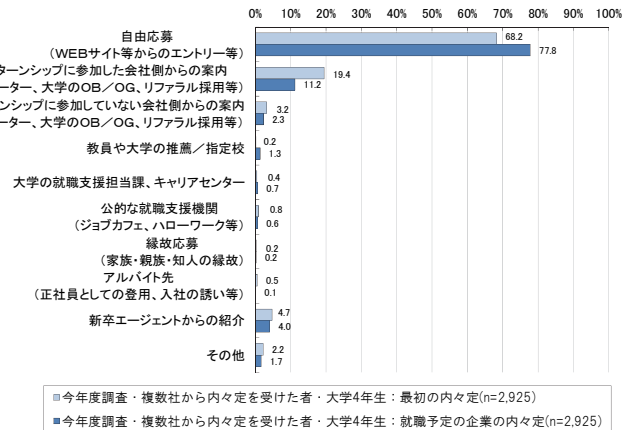
⁴⁵ 1社から内々定を受けた者は就職予定の企業について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた企業と就職予定の企業のそれぞれについて調査し、集計した。なお、ここでの設問は、複数回答形式ではなく、選択肢より一つを回答する方法によるものである。

図表 3-7-4 内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路
(大学4年生)

<1社から内々定を受けた者>

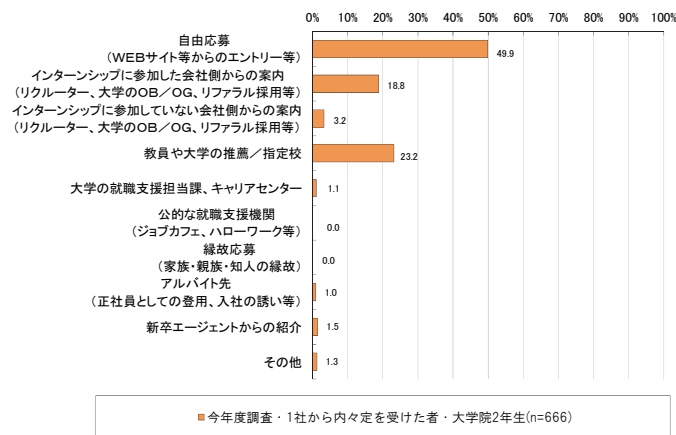


<複数社から内々定を受けた者>

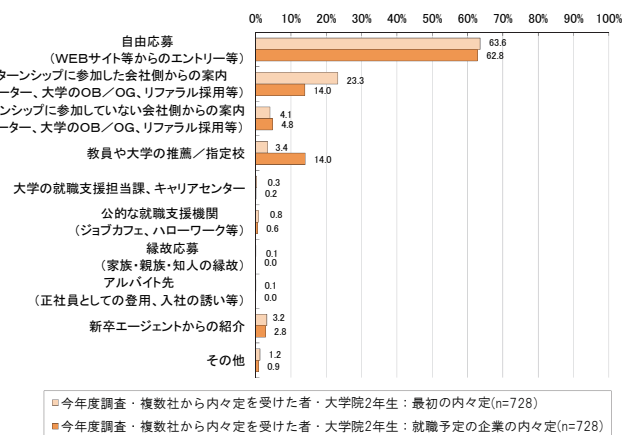


(大学院2年生)

<1社から内々定を受けた者>



<複数社から内々定を受けた者>



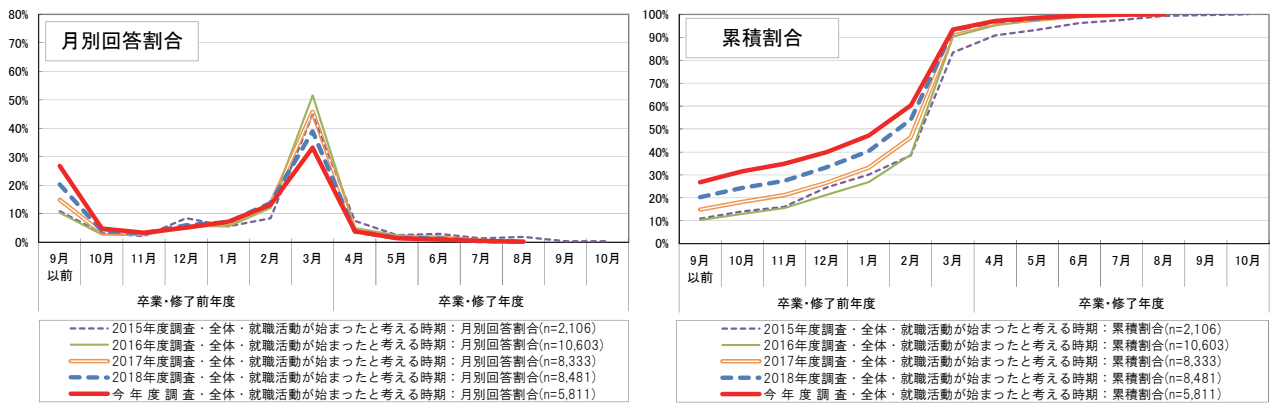
(8) 就職活動の始まりと終わりの認識

①就職活動の始まりの時期についての認識

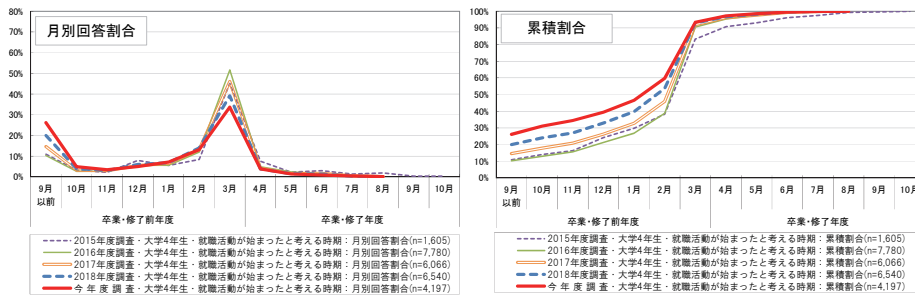
回答者自身の認識としての「就職活動が始まったと考える時期」について、広報活動開始時期である「3月」の回答割合が約3割と最も高くなっている。

2015年度調査～2018年度調査と比較すると、3月の回答割合が最も高いのはこれまでと同様であるが、卒業・修了前年度の9月以前の回答割合が上昇するなど、より早期の時期の回答割合が高くなっている。

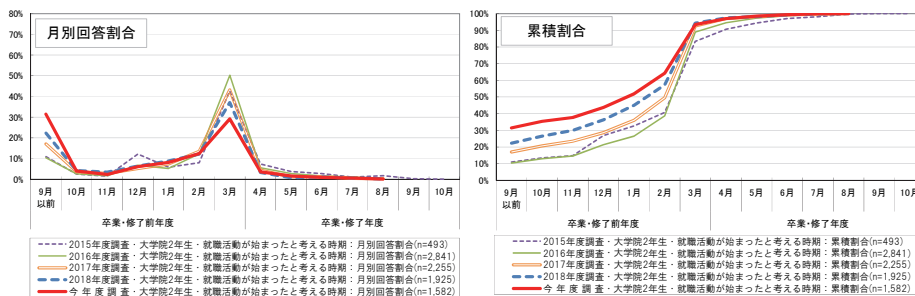
図表 3-8-1 就職活動が始まったと考える時期
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



図表 3-8-2 就職活動が始まったと考える時期（今年度調査・詳細データ）

（大学 4 年生・大学院 2 年生）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	14.4%	4.9%	5.1%	2.4%	4.8%	3.3%	5.1%	7.2%	13.1%	33.2%	3.8%	1.4%	0.9%	0.4%	0.1%
累積割合	14.4%	19.3%	24.4%	26.8%	31.6%	34.8%	40.0%	47.2%	60.3%	93.4%	97.2%	98.6%	99.5%	99.9%	100.0%

（大学 4 年生）

	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	13.7%	4.9%	5.1%	2.4%	4.9%	3.4%	5.0%	7.1%	13.2%	33.7%	3.8%	1.4%	0.9%	0.4%	0.1%
累積割合	13.7%	18.6%	23.7%	26.2%	31.1%	34.5%	39.5%	46.6%	59.7%	93.4%	97.2%	98.6%	99.5%	99.9%	100.0%

（大学院 2 年生）

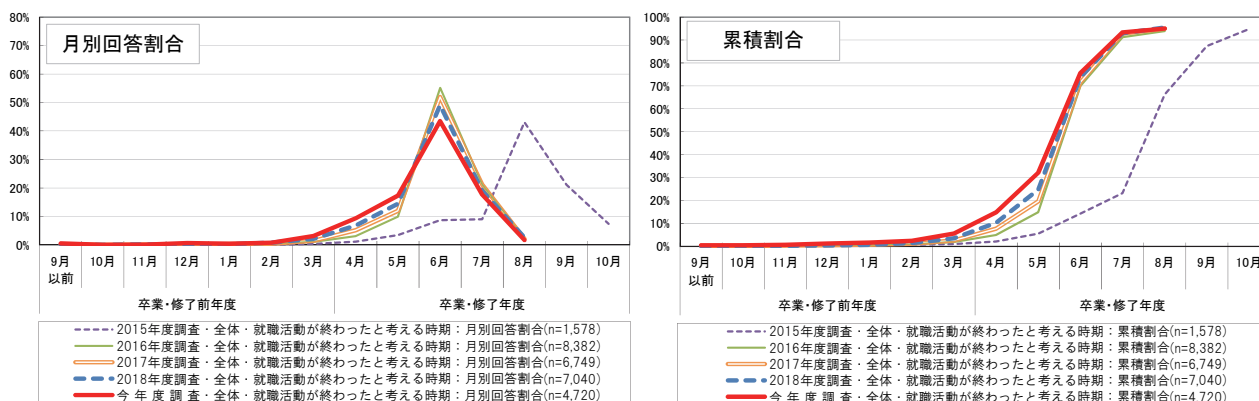
	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	19.4%	5.5%	4.6%	2.0%	3.9%	2.3%	6.1%	8.2%	12.3%	29.2%	3.6%	1.6%	0.9%	0.5%	0.1%
累積割合	19.4%	24.9%	29.5%	31.5%	35.4%	37.7%	43.8%	51.9%	64.3%	93.4%	97.0%	98.6%	99.4%	99.9%	100.0%

②就職活動の終わりの時期についての認識

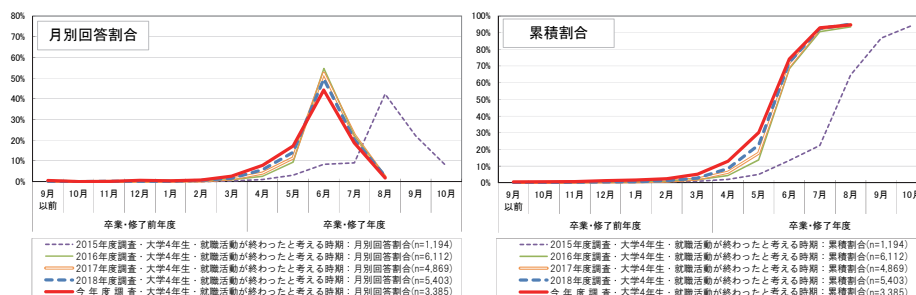
内々定を受けた者⁴⁶にとっての「就職活動が終わったと考える時期」について、採用選考活動開始時期である「6月」の回答割合が約4割と最も高くなっている。なお、累積割合⁴⁷では、5月以前に就職活動が終わったとの回答は約3割である。

2015年度調査～2018年度調査と比較すると、今年度調査では、より早期の回答割合が若干高くなっている。

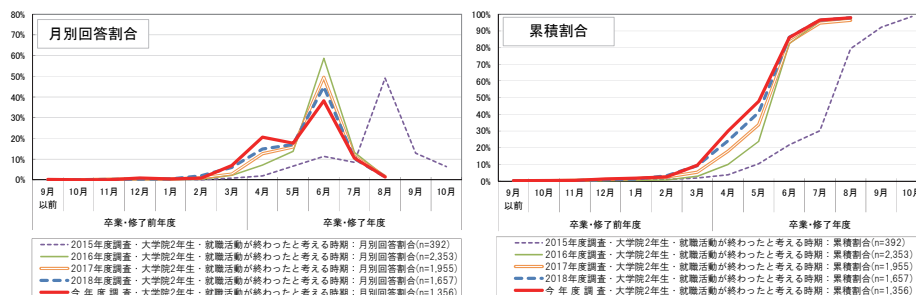
図表 3-8-3 就職活動が終わったと考える時期
(大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



46 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

47 「まだ終わっていない」と回答した者がいるため、卒業・修了年度の「8月」の時点でも累積割合のグラフは100%にならない。

図表 3-8-4 就職活動が終わったと考える時期（今年度調査・詳細データ）

（大学４年生・大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終 わって いない
月別回答割合	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	0.7%	0.4%	0.8%	3.1%	9.3%	17.3%	43.4%	17.7%	1.7%	5.0%
累積割合	0.2%	0.2%	0.3%	0.5%	0.5%	0.6%	1.3%	1.7%	2.4%	5.6%	14.9%	32.2%	75.6%	93.3%	95.0%	—

（大学４年生、公務員・教職員志望者除く）

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終 わって いない
月別回答割合	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	0.6%	0.4%	0.8%	2.6%	7.8%	17.2%	44.2%	18.6%	1.8%	5.4%
累積割合	0.2%	0.2%	0.3%	0.5%	0.6%	0.7%	1.3%	1.7%	2.4%	5.0%	12.9%	30.1%	74.2%	92.8%	94.6%	—

（大学院２年生、公務員・教職員志望者除く）

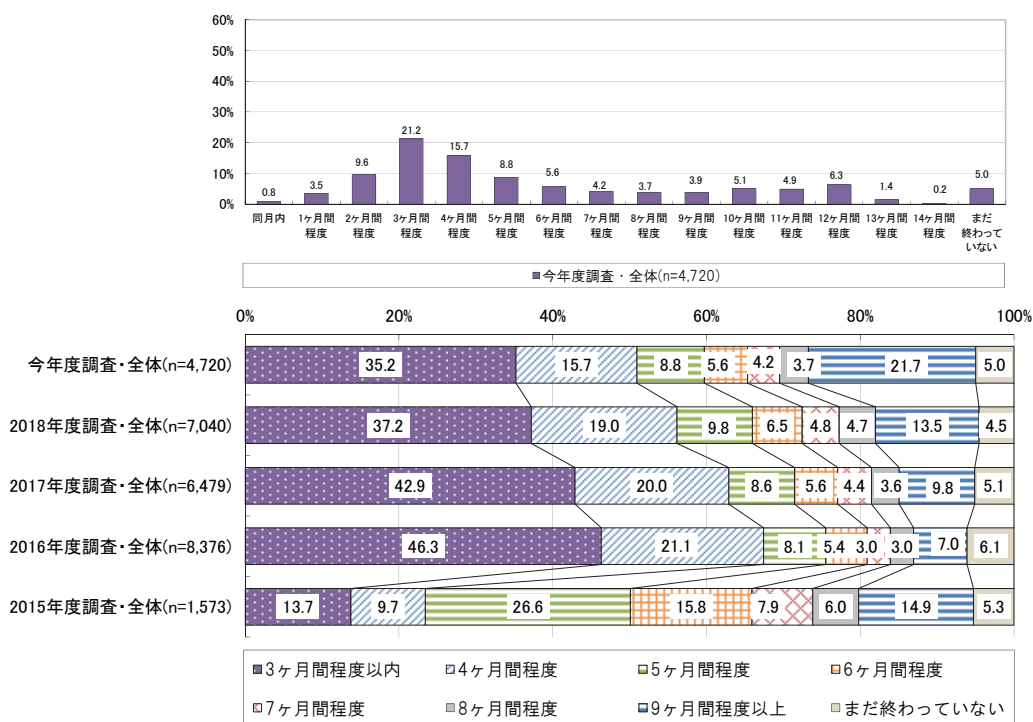
	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終 わって いない
月別回答割合	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.9%	0.5%	0.8%	6.9%	20.6%	17.7%	38.2%	10.6%	1.4%	2.0%
累積割合	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.4%	1.2%	1.7%	2.5%	9.4%	30.0%	47.8%	86.0%	96.6%	98.0%	—

③就職活動の始まりから終わりまでの期間

「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間については⁴⁸、「3ヶ月間程度⁴⁹」の割合が約2割と最も高く、「同月内」から「4ヶ月間程度」までの回答を合わせると約5割となっている。

2016年度調査～2018年度調査と比較すると、「3ヶ月間程度以内」や「4ヶ月間程度」の割合が低下しているが、採用選考活動開始時期が卒業・修了年度の8月とされていた2015年度調査では、「5ヶ月間程度」以上の回答が約8割となっており、今年度調査ではより短期間で就職活動を終える傾向が見られる⁵⁰。

図表 3-8-5 就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生・大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)

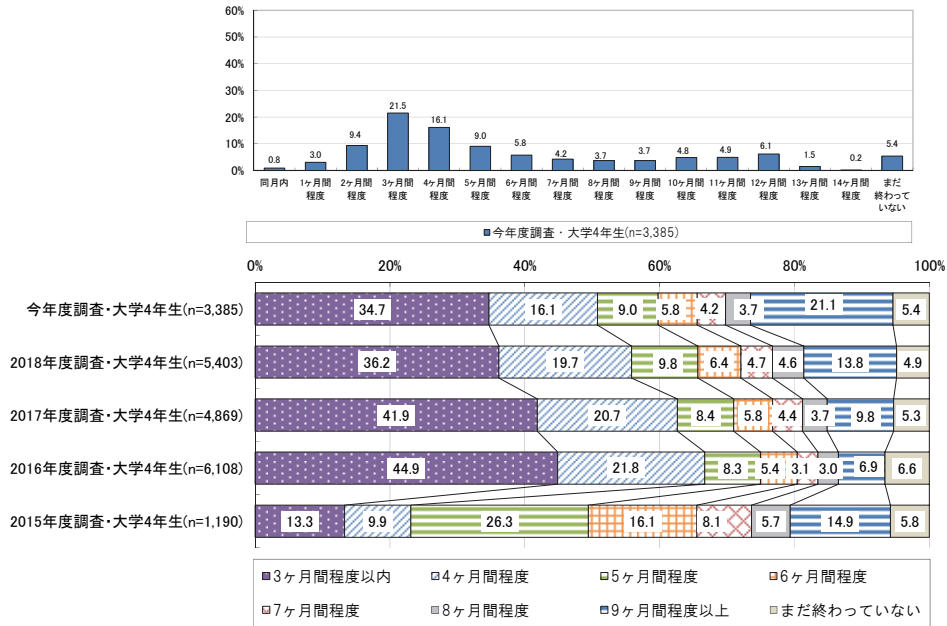


⁴⁸ 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

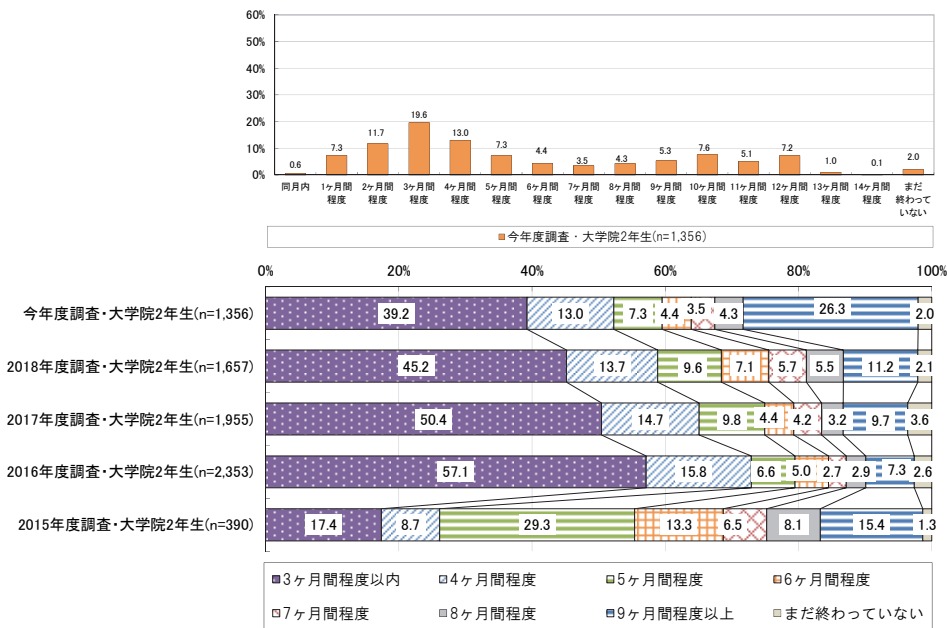
⁴⁹ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間の長さを意味するものではない点に留意が必要である。

⁵⁰ 「始まったと考える時期」「終わったと考える時期」とともに、2015年度調査～2018年度調査では卒業・修了前年度の「9月以前」を最初の選択肢項目としていたが、今年度調査では卒業・修了前年度の「6月以前」を最初の選択肢項目として設定して調査をした。このことから、2015年度調査～2018年度調査では最大の期間は「11ヶ月間程度」であるが、今年度調査では「14ヶ月間程度」となっている。ただし、2015年度調査～2018年度調査との比較を行う上では、分類がそろえるように再集計をしている。

図表 3-8-6 就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



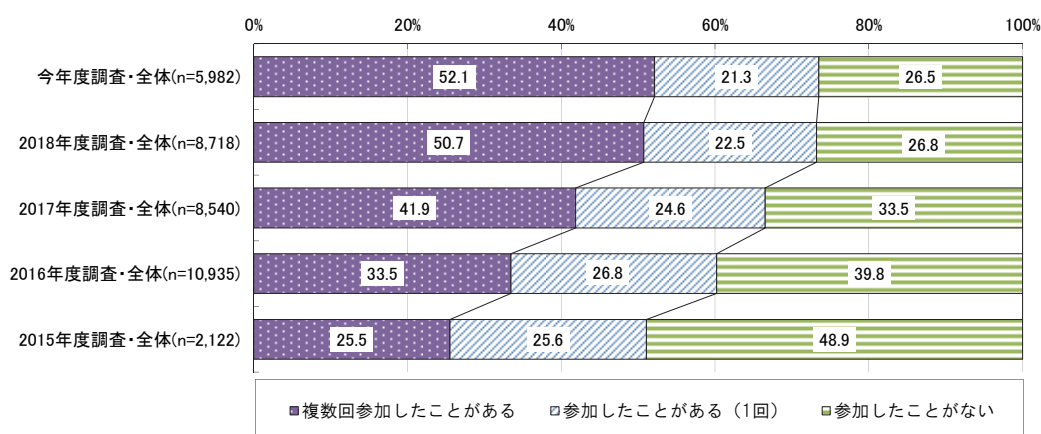
(9) インターンシップの参加状況

①参加の有無

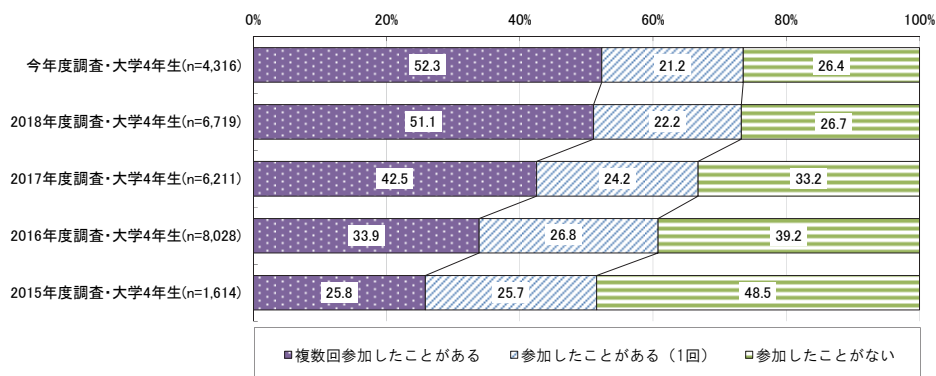
インターンシップの参加経験について、約7割が「参加したことがある」と回答している。なお、約5割が「複数回参加したことがある」と回答している。

2015年度調査～2018年度調査と比較すると、「参加したことがある」との回答割合が上昇傾向にあるが、2018年度調査との比較では、今年度調査は概ね同様の結果となっている。

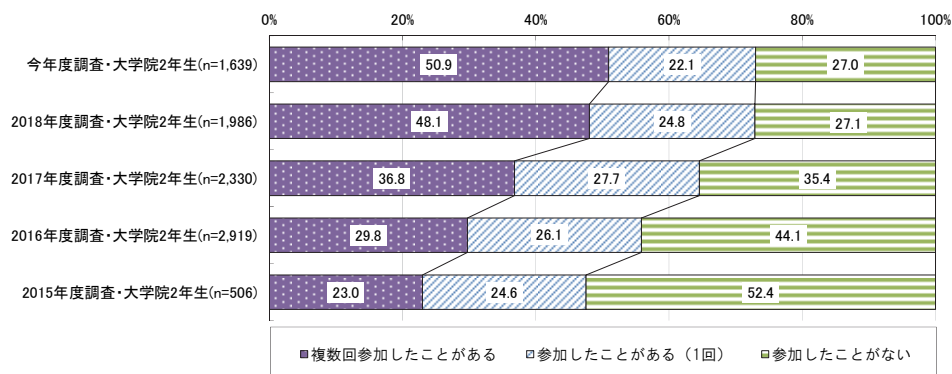
図表 3-9-1 インターンシップ参加経験の有無⁵¹
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



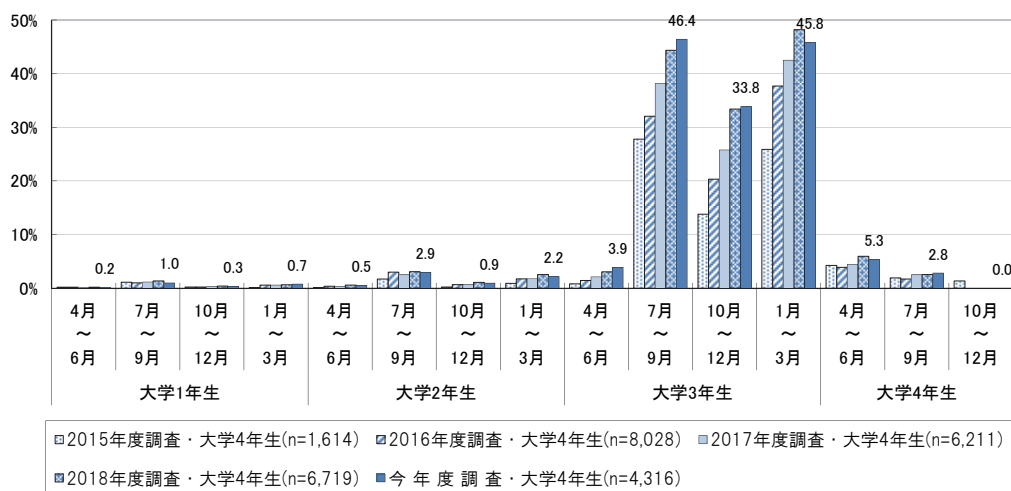
⁵¹ 2015年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況についてたずねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

②参加時期

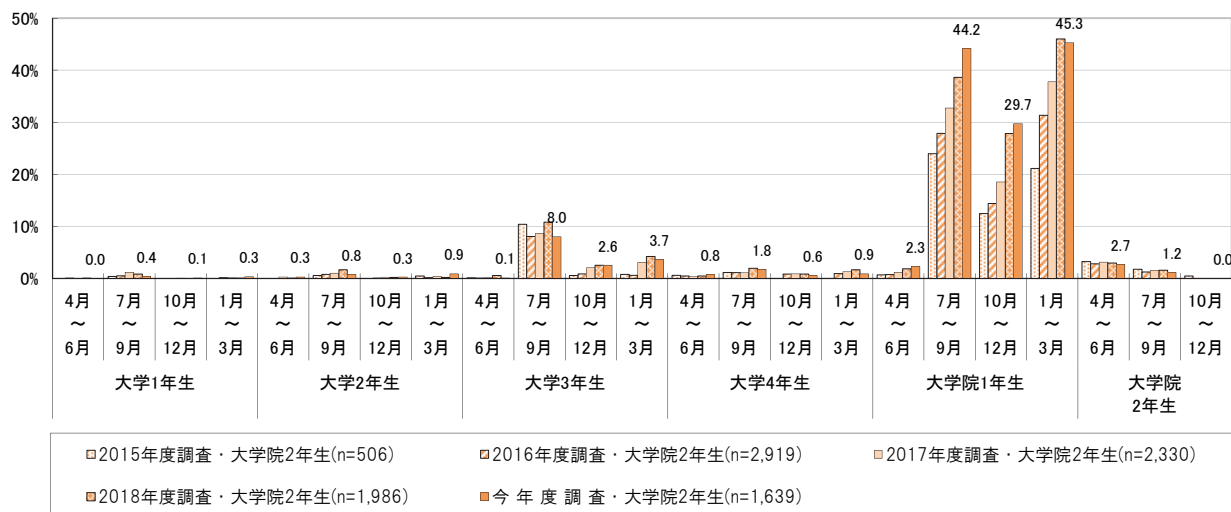
インターンシップ参加の時期について⁵²、大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」と「1月～3月」の参加割合が4～5割と高く、次に大学3年生・大学院1年生の「10月～12月」の割合が約3割となっている。

2015年度調査～2018年度調査と比較すると⁵³、上記のそれぞれの時期において、インターンシップに参加したとの回答割合が高まる傾向にあり、2018年度調査との比較においては、今年度調査の大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」の回答割合が若干高くなっている。

図表 3-9-2 インターンシップ参加時期（複数回答）
（大学4年生）



（大学院2年生）



⁵² ここでの集計対象（母数）には、インターンシップに参加しなかった者も含む。

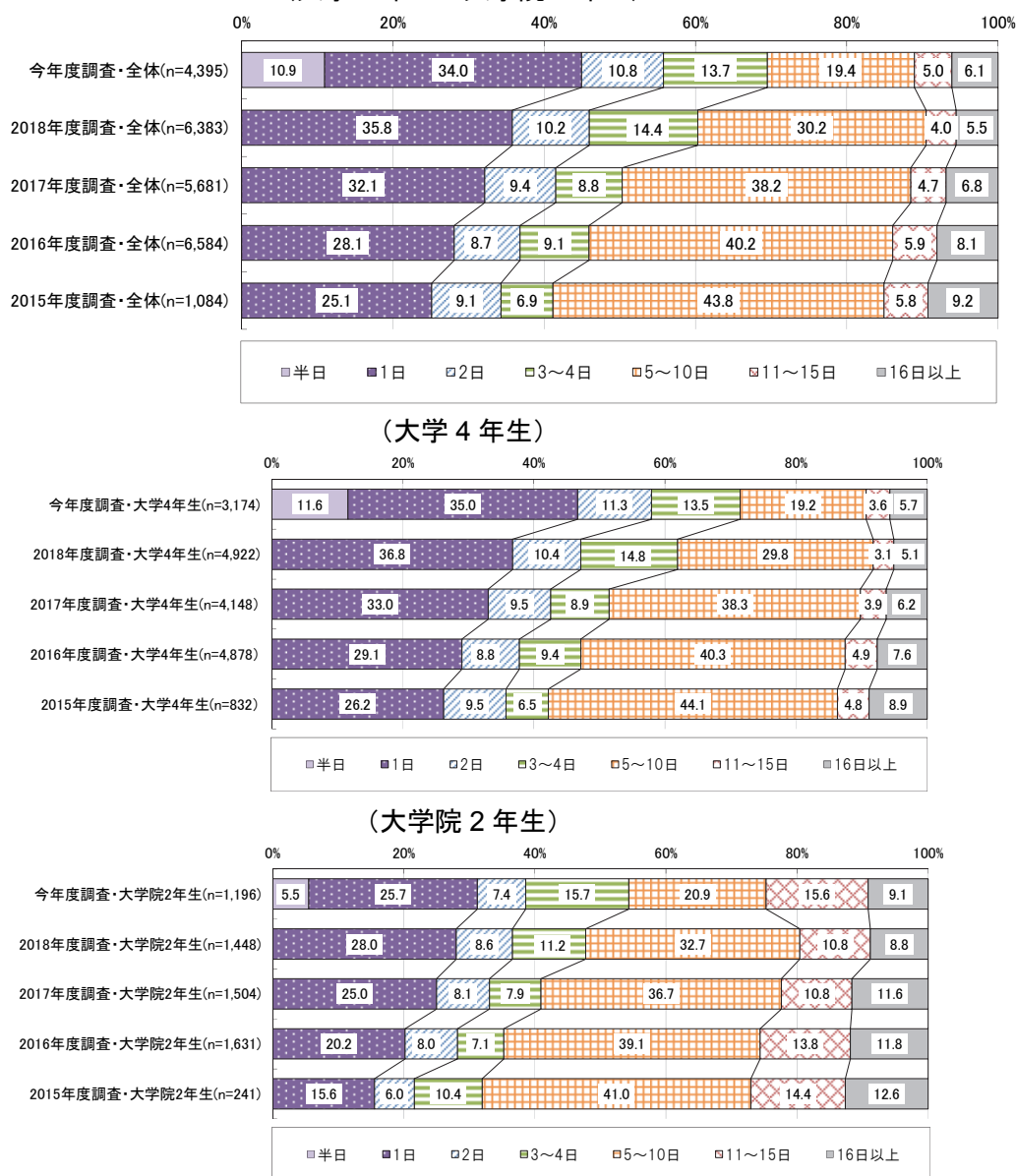
⁵³ 2015年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況についてたずねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

③参加日数

参加したインターンシップのうち、最長の日数のものは、「1日」との回答割合が約3割と最も高くなっている。なお、「半日」との回答は約1割であった⁵⁴。

2015年度調査～2018年度調査と比較すると⁵⁵、今年度調査では「1日（以内）」など、比較的短い期間の回答割合が高くなっている。

図表 3-9-3 インターンシップ参加日数
(大学4年生・大学院2年生)



⁵⁴ 2015年度調査～2018年度調査では参加したインターンシップの最長の日数を1日単位の数字で回答されたものを分類して集計を行っていたが、今年度調査ではあらかじめ選択肢を設定し、参加したことがある日数の分類を選択してもらい、その上で最長の日数に関して集計をした。「半日」の分類は今年度調査についてのみ把握・集計を行うことができるものとなっている。

⁵⁵ 2015年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況についてたずねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

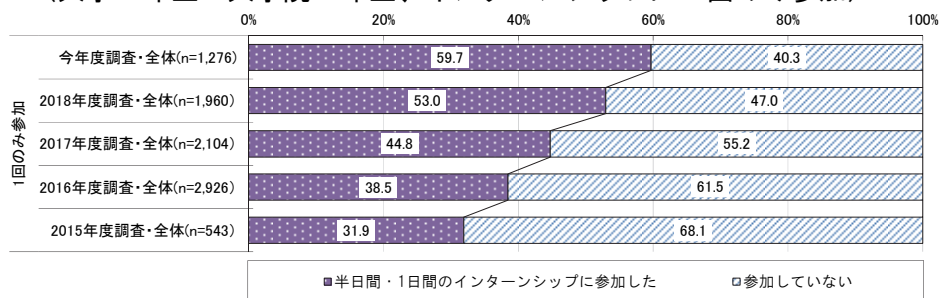
④半日間・1日間のインターンシップ参加状況

半日間又は1日間のインターンシップの参加状況⁵⁶は、インターンシップに1回のみ参加したことがある者では約6割、インターンシップに複数回参加したことがある者では約9割であった。

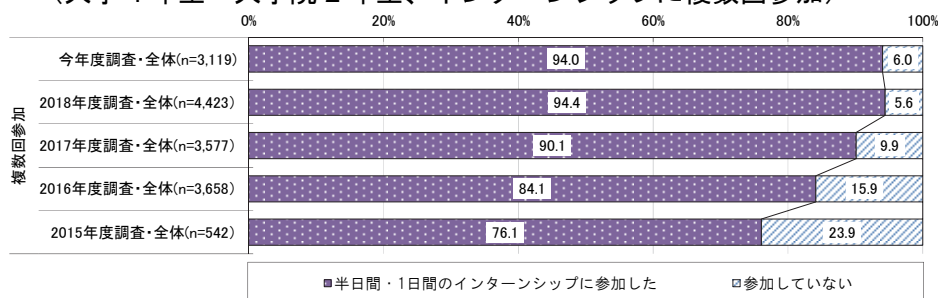
2015年度調査～2018年度調査と比較すると、インターンシップに1回のみ参加した者、複数回参加した者の双方で半日間又は1日間のインターンシップに参加したとする割合が上昇傾向にある。

また、インターンシップへのすべての参加回数のうち、半日間又は1日間のインターンシップの参加回数が占める割合は、約8割であった。2017年度調査・2018年度調査に比べ、この割合は上昇している⁵⁷。

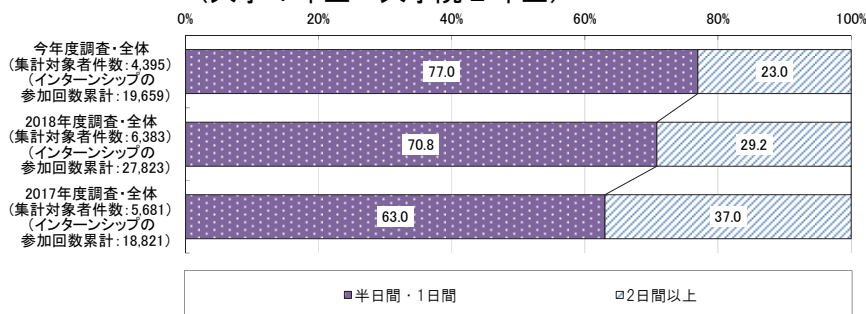
図表 3-9-4 インターンシップ参加経験者の半日間・1日間のインターンシップ参加の状況
(大学4年生・大学院2年生、インターンシップに1回のみ参加)



(大学4年生・大学院2年生、インターンシップに複数回参加)



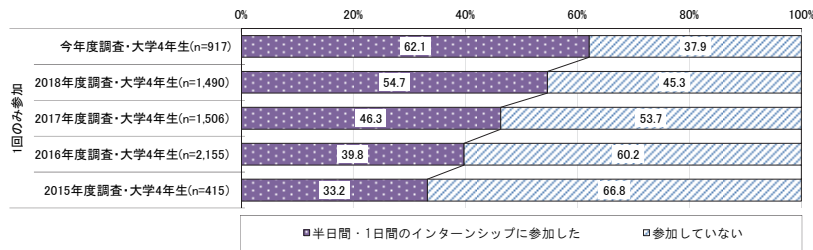
図表 3-9-5 参加したインターンシップが半日間・1日間であった割合
(インターンシップへの参加回数累計による集計)
(大学4年生・大学院2年生)



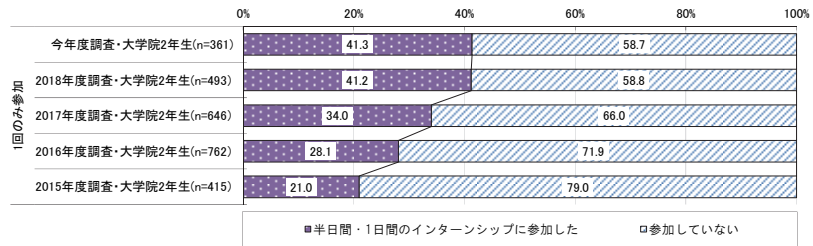
⁵⁶ 1回のみ参加したことがある場合にはその日数に関して、複数回参加したことがある場合には「半日」または「1日」のインターンシップに参加したと回答しているか否かという点から、参加の有無について判断をした。なお、2015年度調査～2018年度調査に関して複数回参加したことがある場合には、「最短の日数」に関する回答について集計し、1日間のインターンシップの参加の有無について判断をした。

⁵⁷ 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。

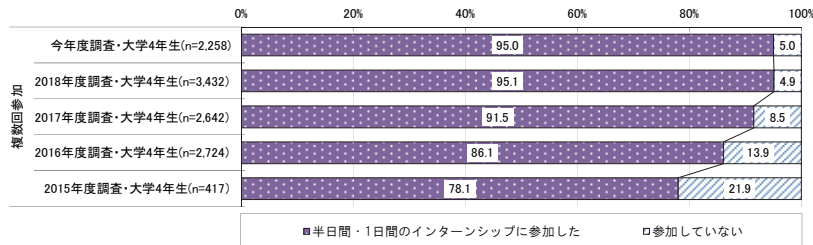
図表 3-9-6 インターンシップ参加経験者の1日間のインターンシップ参加の状況
(大学4年生、インターンシップに1回のみ参加)



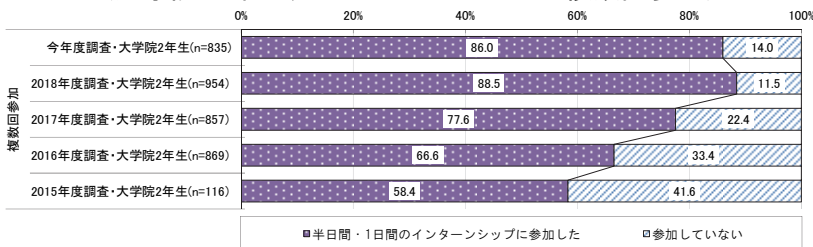
(大学院2年生、インターンシップに1回のみ参加)



(大学4年生、インターンシップに複数回参加)

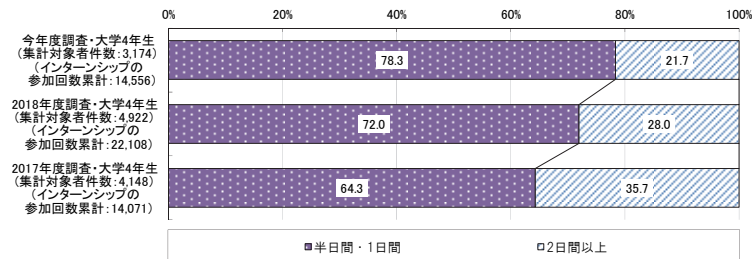


(大学院2年生、インターンシップに複数回参加)

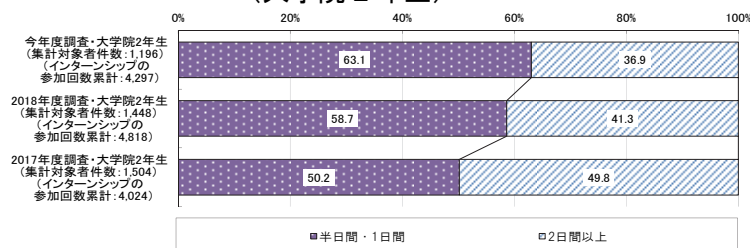


図表 3-9-7 参加したインターンシップが半日間・1日間のインターンシップであった割合
(インターンシップへの参加回数累計による集計)

(大学4年生)



(大学院2年生)



⑤参加したインターンシップの就業体験等との関係性

参加したインターンシップが、就業体験等⁵⁸を伴っていたかについては⁵⁹、半日間・1日間のインターンシップでは約6割が、2日間以上のインターンシップでは約3割が「就業体験等を伴うものではなかった」との回答であった。

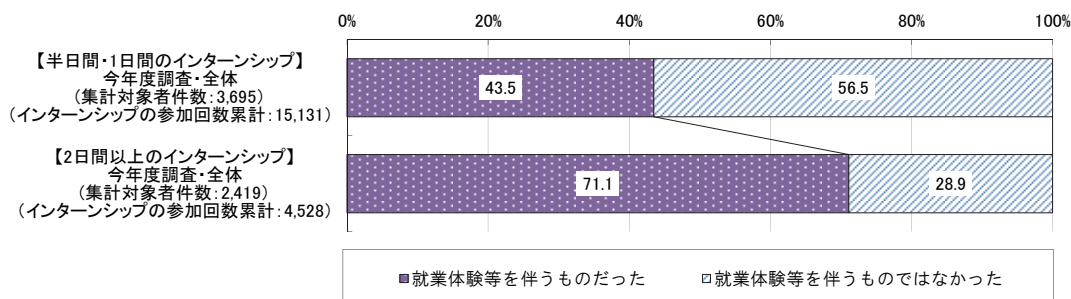
また、インターンシップの日数別に比較すると、日数の短いインターンシップの方が、「就業体験等を伴うものではなかった」とする割合が高い傾向が見られる。

なお、調査項目の設定の方法等が異なるため厳密な比較はできないが、2017年度調査・2018年度調査と比較すると、「1日間（以内）のインターンシップ」において、「就業体験を伴うものではなかった」とする割合が高まっている可能性がある⁶⁰。

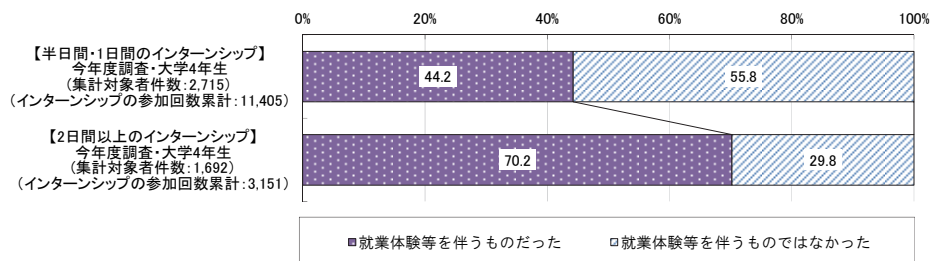
図表 3-9-8 参加したインターンシップの就業体験等との関係性

(参加したインターンシップの回数累計による集計)

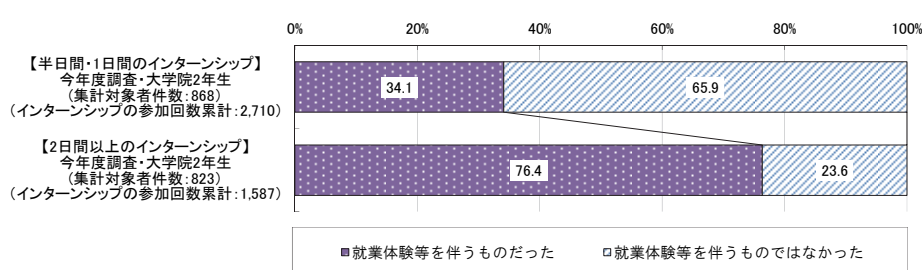
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁵⁸ 就業体験等とは、職場での業務体験や課題解決のワークショップ等を経験するもので、企業の業務内容の説明や職場見学のみものは含まない旨、回答者に案内した上で調査を行った。

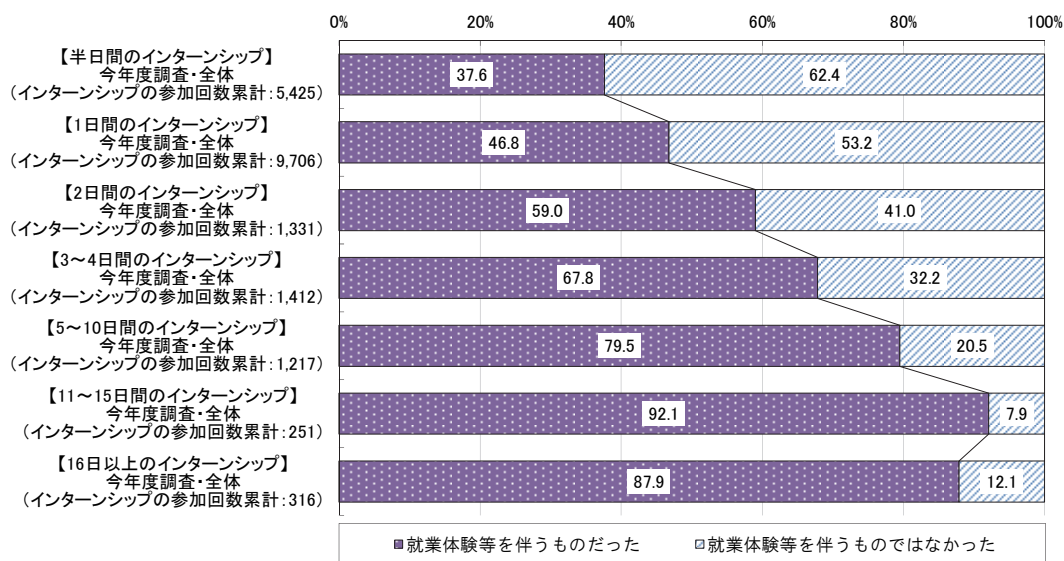
⁵⁹ 2015年度調査～2018年度調査では当該設問について調査を実施していない。2017年度調査・2018年度調査については「1日間のインターンシップ」に関して、それが就業体験等を伴うものであったかを調査しているが、今年度調査とは異なる方法で設問の設定を行っていることから、直接的な比較は行わなかった。

⁶⁰ 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。

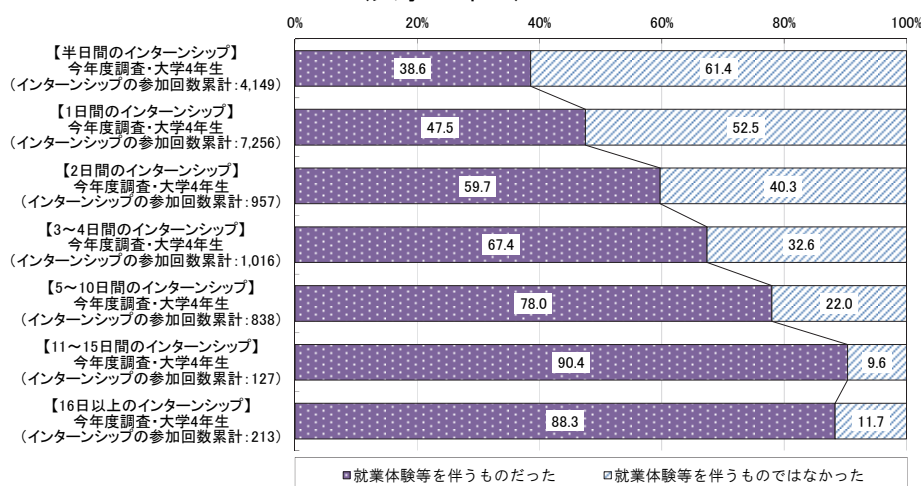
図表 3-9-9 インターンシップの日数別、参加したインターンシップの就業体験等との関係性

(参加したインターンシップの回数累計による集計)

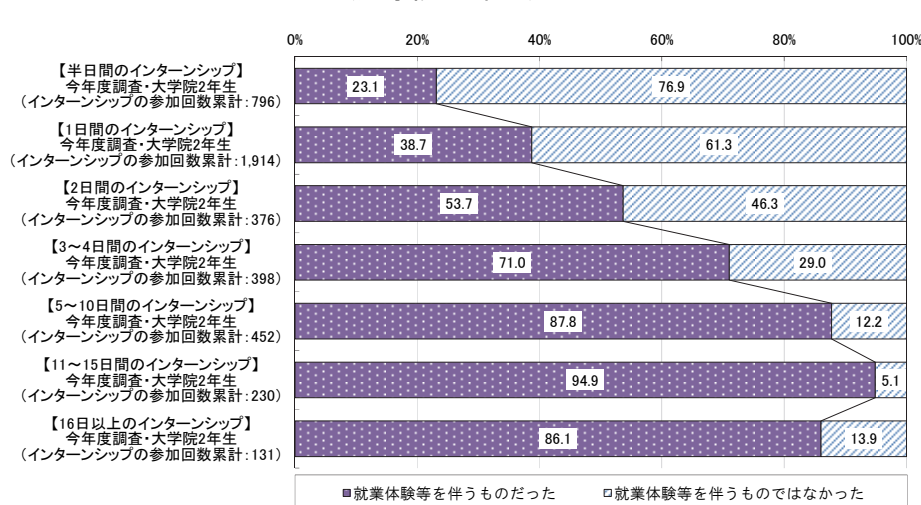
(大学4年生・大学院2年生)



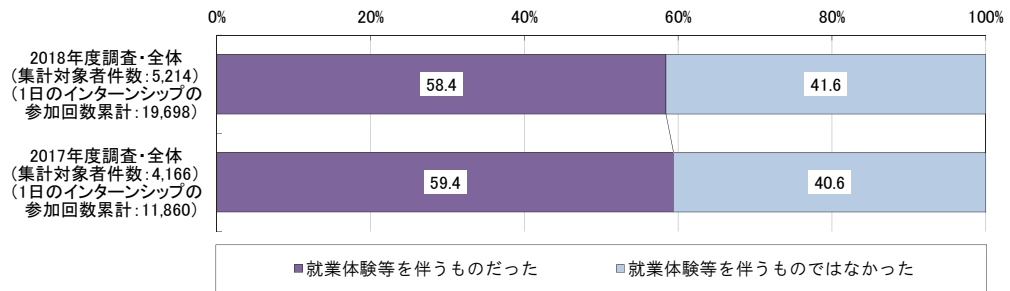
(大学4年生)



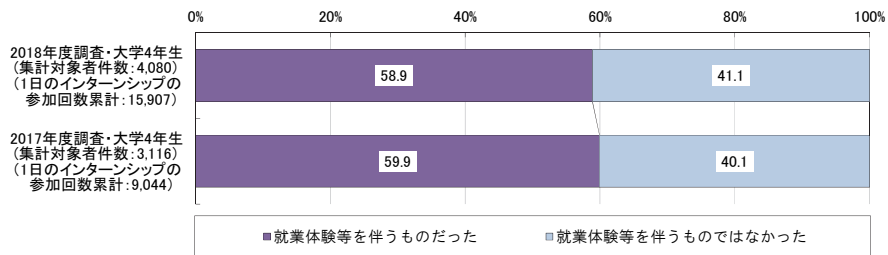
(大学院2年生)



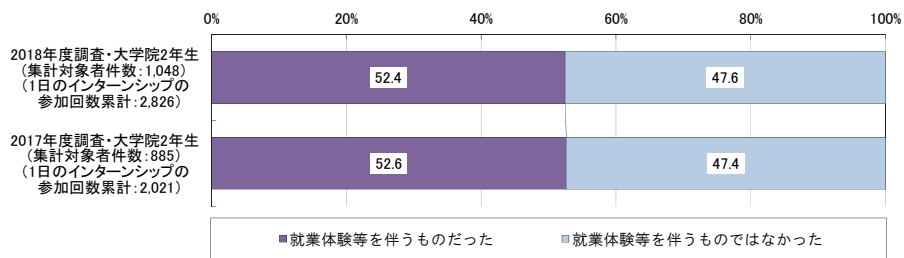
図表 3-9-10 2017 年度調査・2018 年度調査、1 日間のインターンシップの就業体験等との関係性
 (1 日間のインターンシップへの参加回数累計による集計)
 (大学 4 年生・大学院 2 年生)



(大学 4 年生)



(大学院 2 年生)

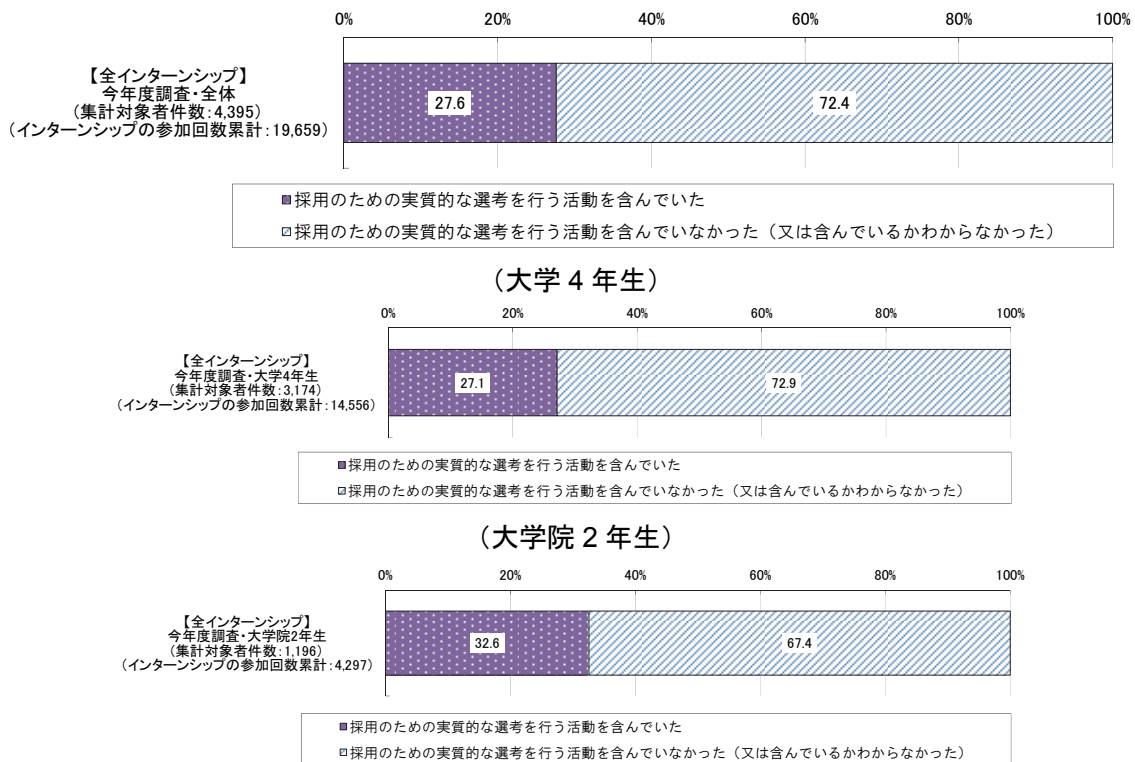


⑥インターンシップにおける実質的な選考実施の有無

参加したインターンシップが、採用のための実質的な選考を行う活動⁶¹を含んでいたかについては⁶²、約3割が「採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた」との回答であった。

また、日数別のインターンシップを比較すると、「採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた」とする回答は「3～4日間」のインターンシップが最も高く、約5割となっている。

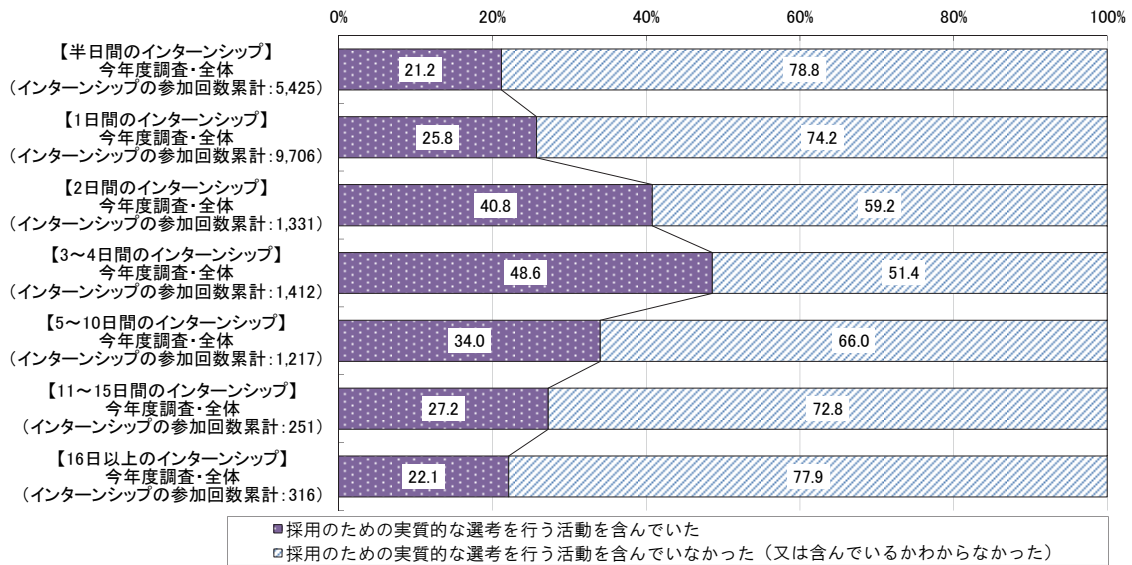
図表 3-9-11 インターンシップにおける実質的な選考実施の有無
(参加したインターンシップの回数累計による集計)
(大学4年生・大学院2年生)



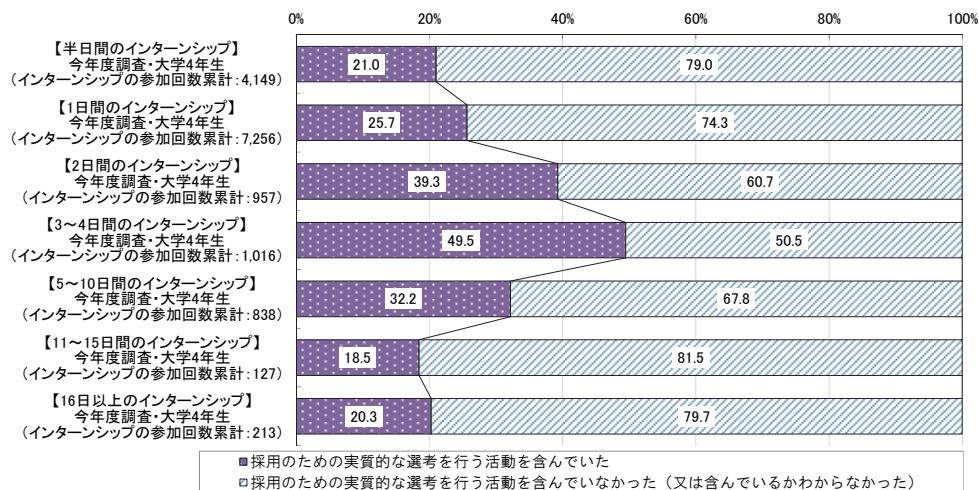
⁶¹ 「採用のための実質的な選考を行う活動」とは、インターンシップの参加が採用面接を受けるための必須条件になっていたり、インターンシップの結果が内々定の獲得に影響したりすることとして考えていただくよう、回答者に案内した上で調査を行った。また、終了後にインターンシップ参加者だけの説明会に呼ばれたという場合等も含んでいただくようにした。

⁶² 2015年度調査～2018年度調査では当該設問について調査を実施していない。

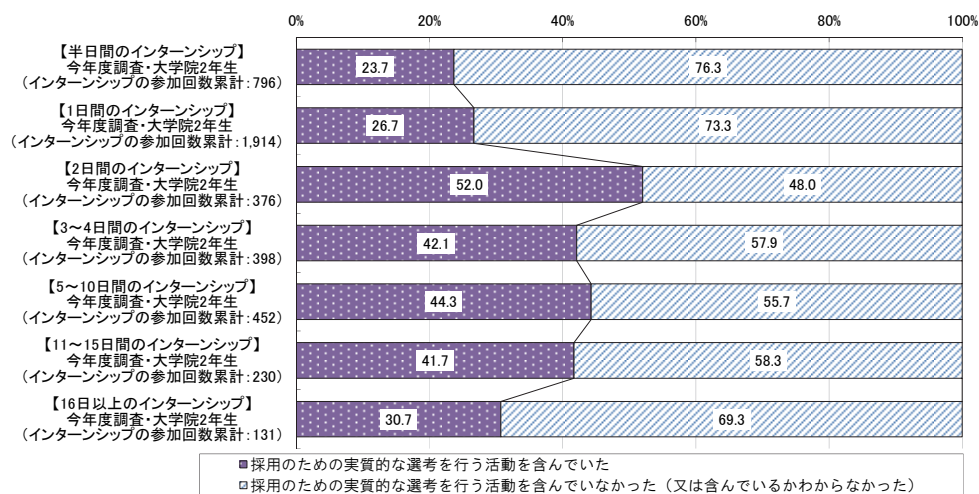
図表 3-9-12 インターンシップの日数別、インターンシップにおける実質的な選考実施の有無
 (参加したインターンシップの回数累計による集計)
 (大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



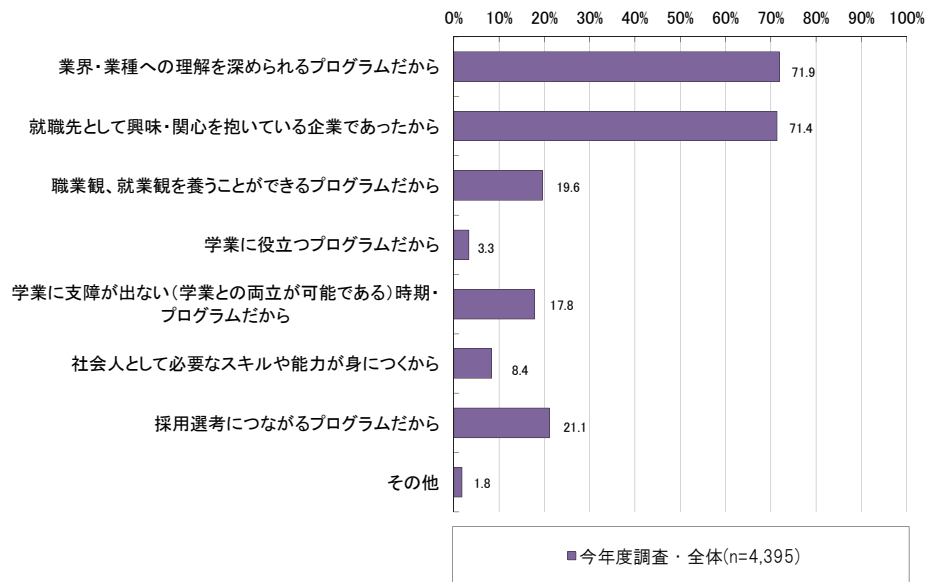
(大学院2年生)



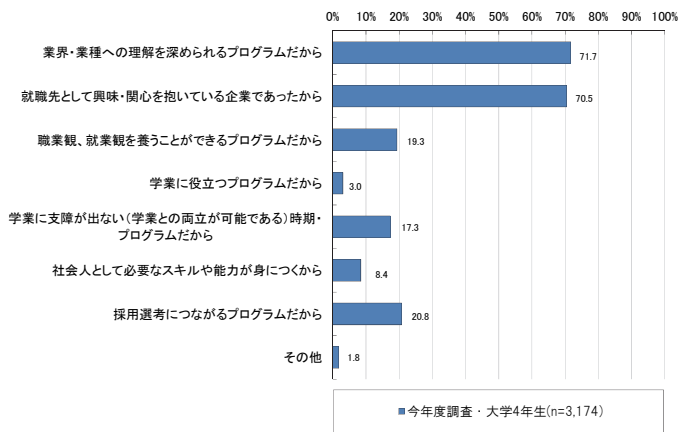
⑦インターンシップ先を選択した理由

どのような基準でインターンシップ先を選択したかについて、「業界・業種への理解を深められるプログラムだから」と「就職先として興味・関心を抱いている企業であったから」がそれぞれ約7割となっている⁶³。

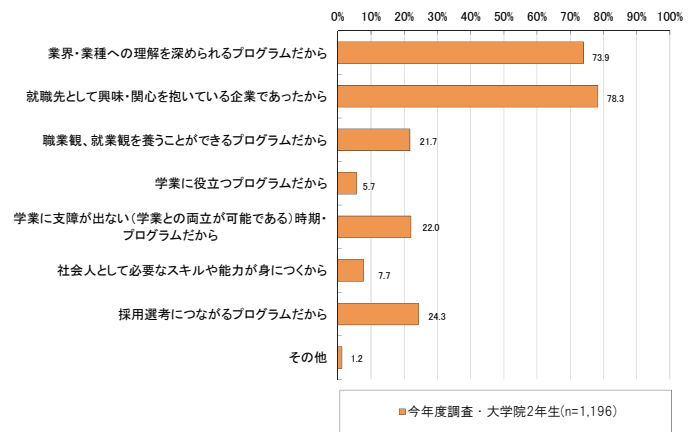
図表 3-9-13 インターンシップ先を選択した理由（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）



（大学院2年生）



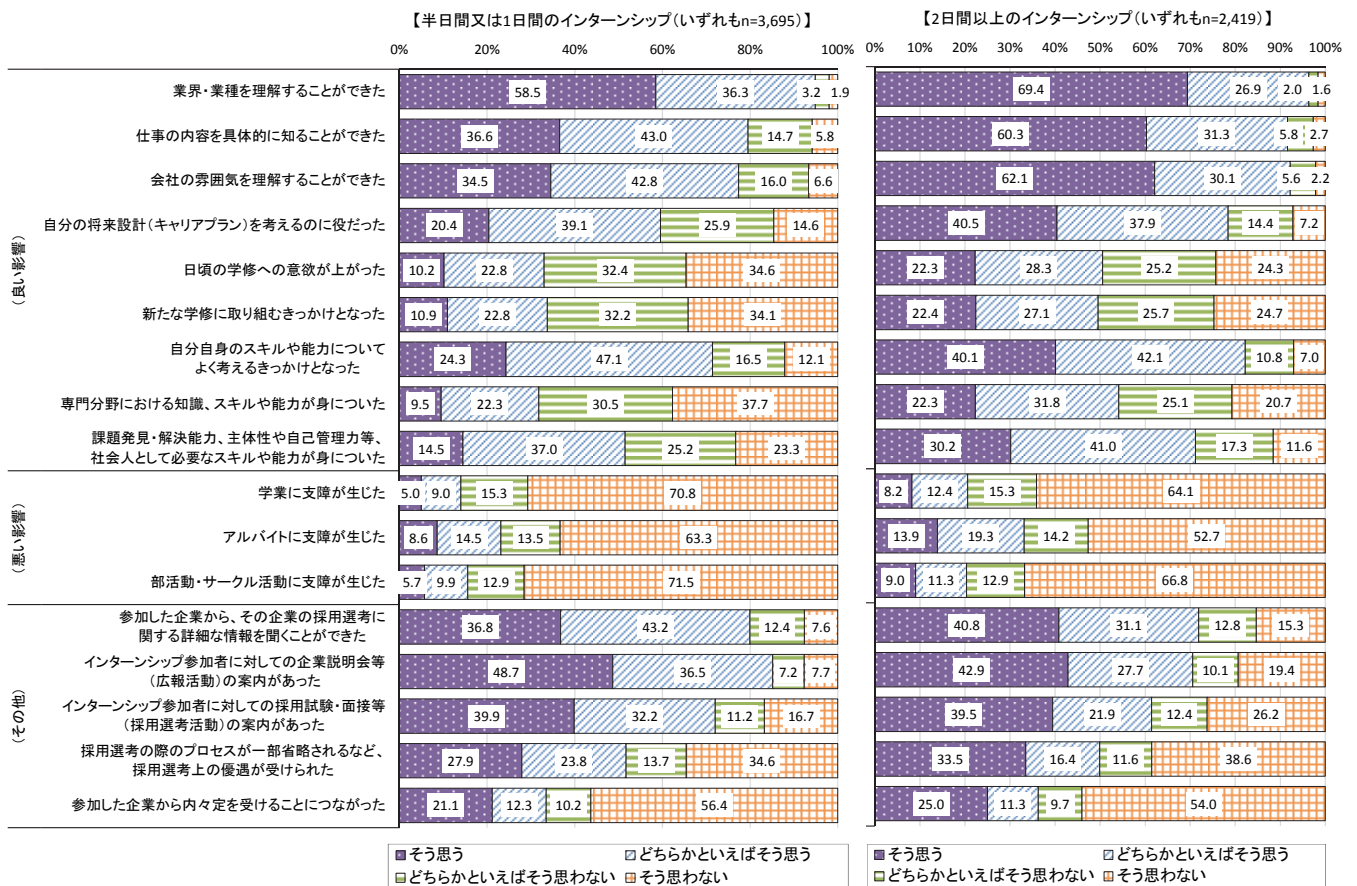
⁶³ 2015年度調査～2018年度調査では当該設問について調査を実施していない。

⑧インターンシップの効果についての認識

インターンシップに参加してどのような効果があったと感じたか⁶⁴について、参加したインターンシップの日数別では⁶⁵、「半日又は1日間のインターンシップ」、「2日間以上のインターンシップ」とともに、「業界・業種を理解することができた」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が9割以上と高くなっている。このほか、「仕事の内容を具体的に知ることができた」など、「良い影響」と考えられる事項について、「半日間又は1日間のインターンシップ」に比べ「2日間以上のインターンシップ」の方が「そう思う」との回答割合が高くなっている。

また、インターンシップ参加者に対して、「企業説明会等（広報活動）の案内があった」と「採用試験・面接等（採用選考活動）の案内があった」について、「半日間又は1日間のインターンシップ」の方が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が高くなっている。

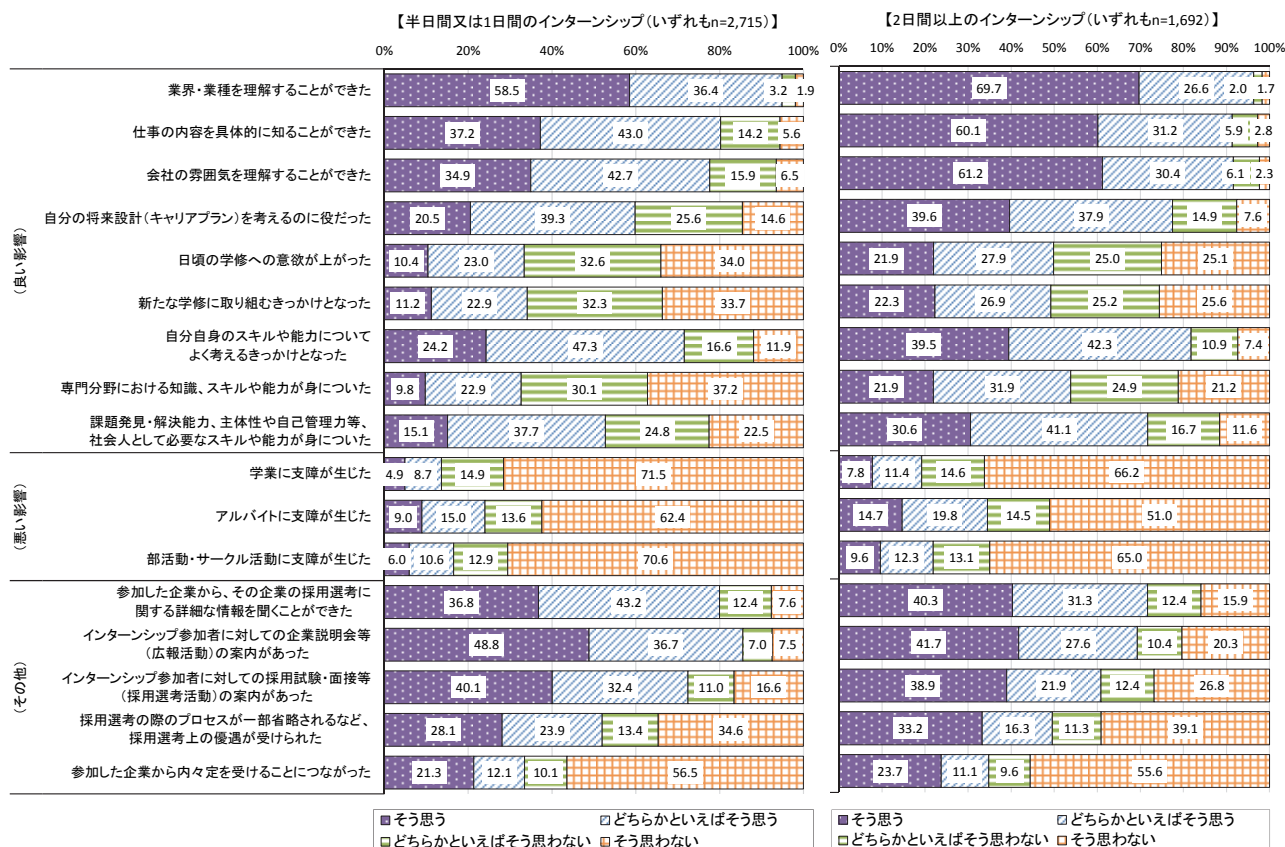
図表 3-9-14 インターンシップに参加して感じた効果
(大学4年生・大学院2年生)



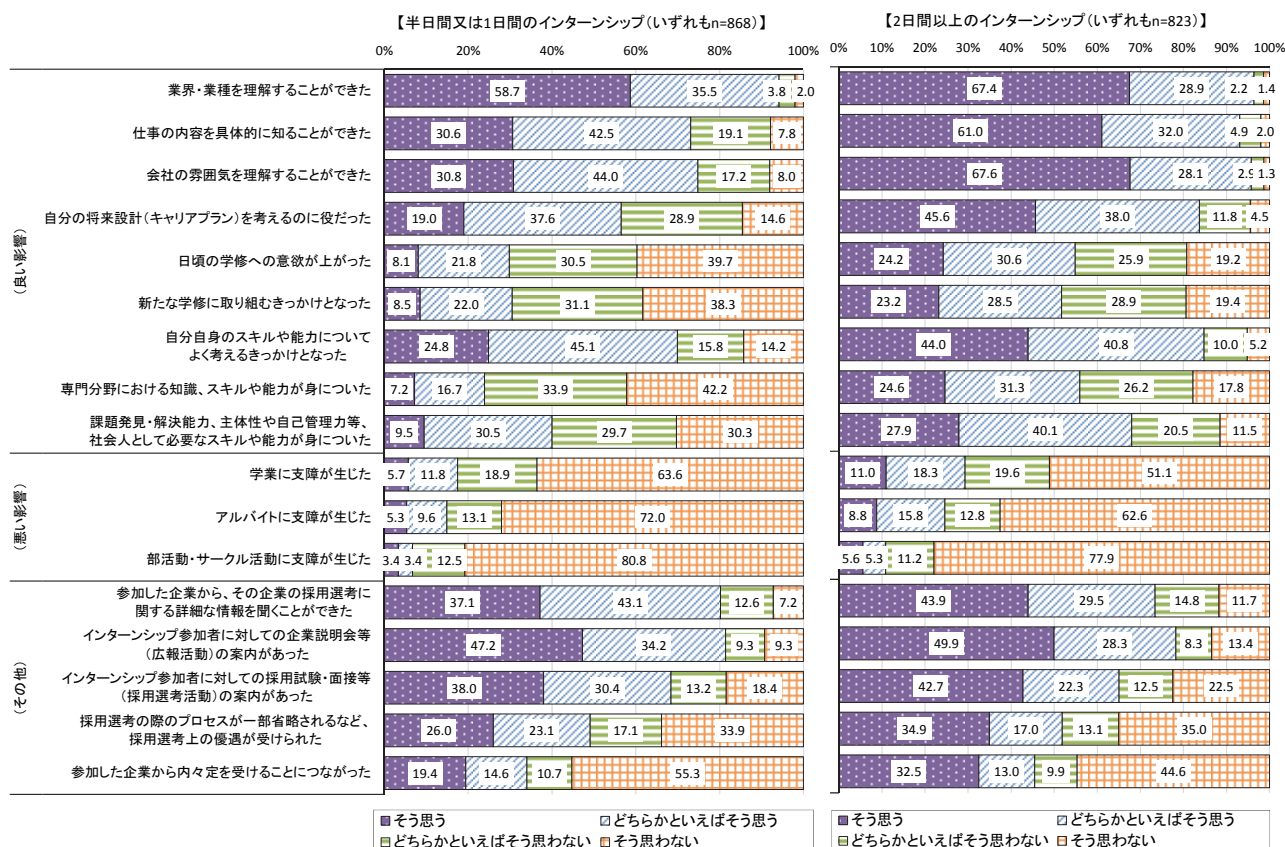
⁶⁴ 2015年度調査～2017年度調査では当該設問について調査を実施していない。2018年度調査では同内容の設問を設定しているが、複数回答形式での項目としていることから、今年度調査との比較は行っていない。

⁶⁵ 「半日間又は1日間のインターンシップ」についての集計対象者は、「インターンシップに1回のみ、半日間又は1日間参加した」「インターンシップに複数回参加していずれも半日間又は1日間であった」「インターンシップに複数回参加して半日間又は1日間のインターンシップに参加したことがある」のいずれかに該当する者である。「2日間以上のインターンシップ」についての集計対象者は、「インターンシップに1回のみ、2日間以上参加した」「インターンシップに複数回参加していずれも2日間以上であった」「インターンシップに複数回参加して2日間以上のインターンシップに参加したことがある」のいずれかに該当する者である。インターンシップに複数回参加して半日間又は1日間のものと2日間以上のもののいずれにも参加したことがある場合は、参加したことがあるインターンシップについて「半日間又は1日間であったもの」と「2日間以上であったもの」のそれぞれについて回答いただくように設問を設定した。

図表 3-9-15 インターンシップに参加して感じた効果
(大学4年生)



(大学院2年生)



第4章 企業による学業などに対する配慮の状況等

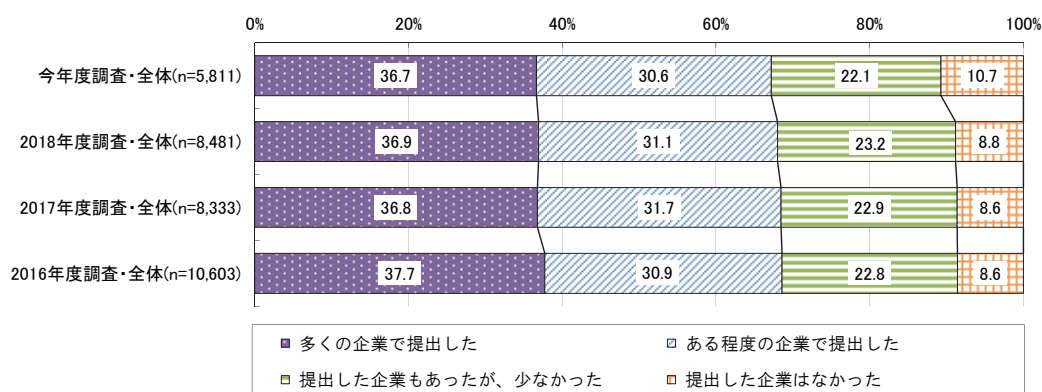
(1) 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況

① 提出の状況

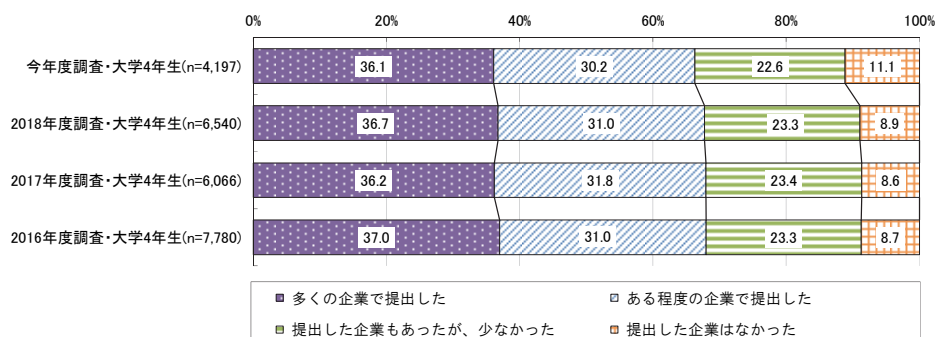
就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴（成績証明書など）の提出がどの程度求められたかについて、「多くの企業で提出した」の回答割合が約4割となっている。

これは、2016年度調査～2018年度調査と概ね同様の結果である⁶⁶。

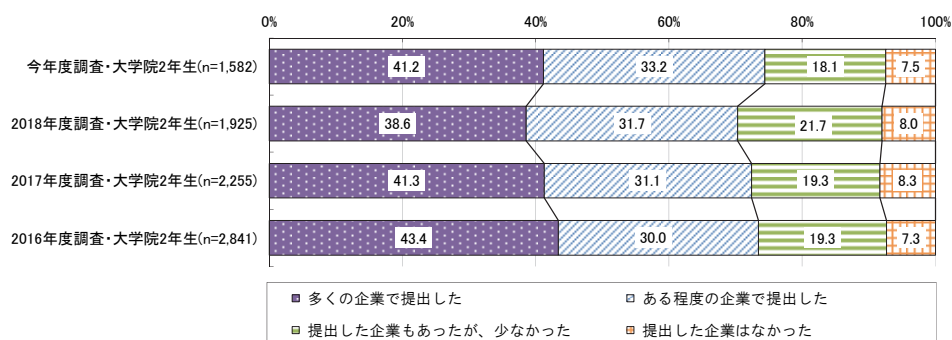
図表 4-1-1 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



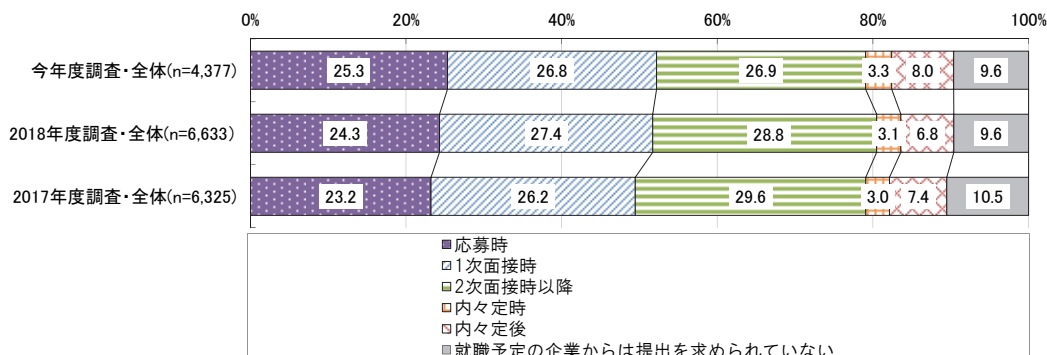
⁶⁶ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

②提出のタイミング

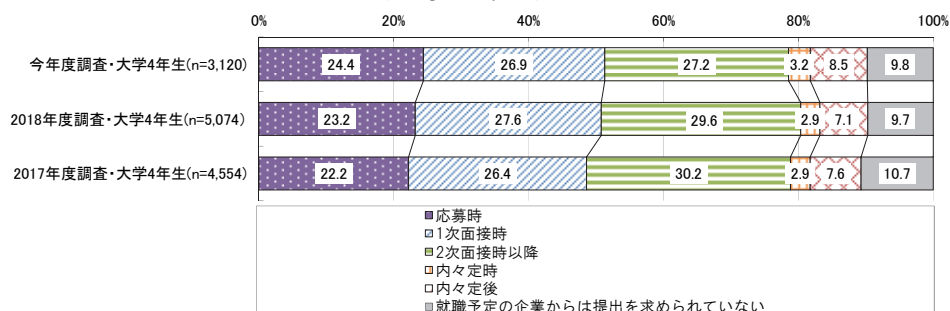
就職予定の企業から履修履歴（成績証明書など）の提出がいつ頃求められたかについて、「2次面接時以降」の回答割合が約3割と最も高く、次いで「1次面接時」の割合が高くなっている。

これは、2017年度調査・2018年度調査と概ね同様の結果である⁶⁷。

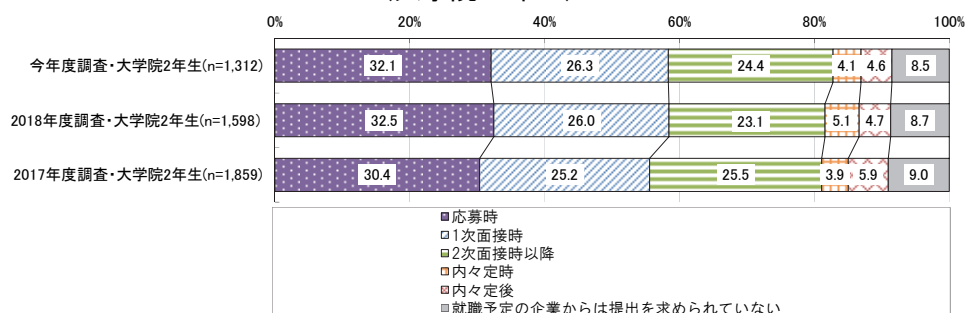
図表 4-1-2 就職予定の企業への履修履歴（成績証明書など）の提出のタイミング
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）



（大学院2年生）



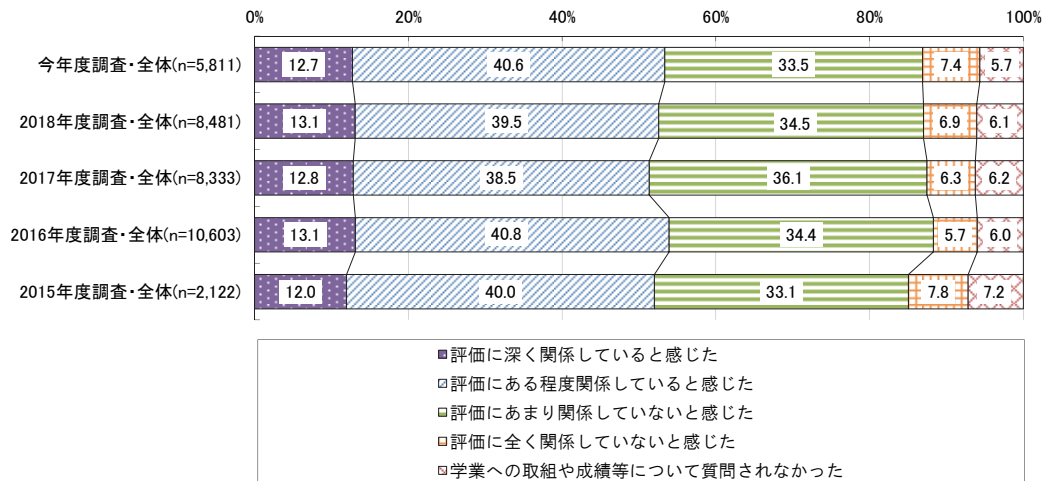
⁶⁷ 2015年度調査・2016年度調査では当該設問について調査を実施していない。

(2) 採用面接の際の学業や成績等への評価

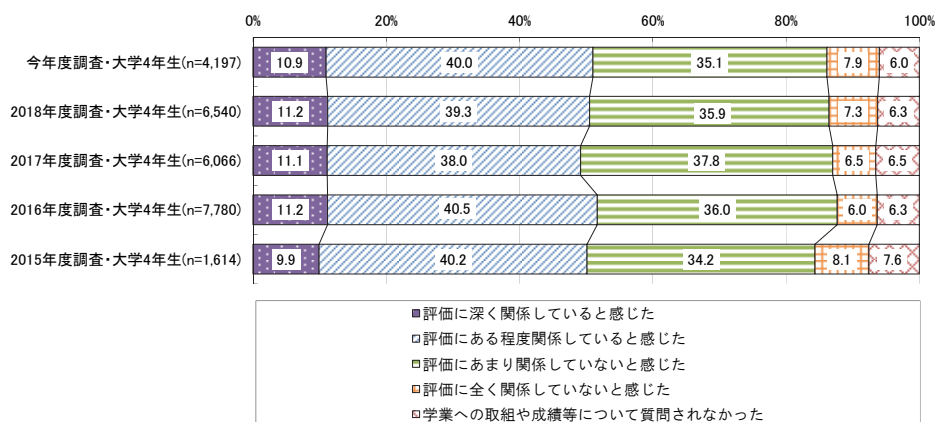
採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業への取組や成績等の質問を受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについて、「評価に深く関係していると感じた」と「評価にある程度関係していると感じた」を合わせた割合が5割となっている。

これは、2015年度調査～2018年度調査と概ね同様の結果である。

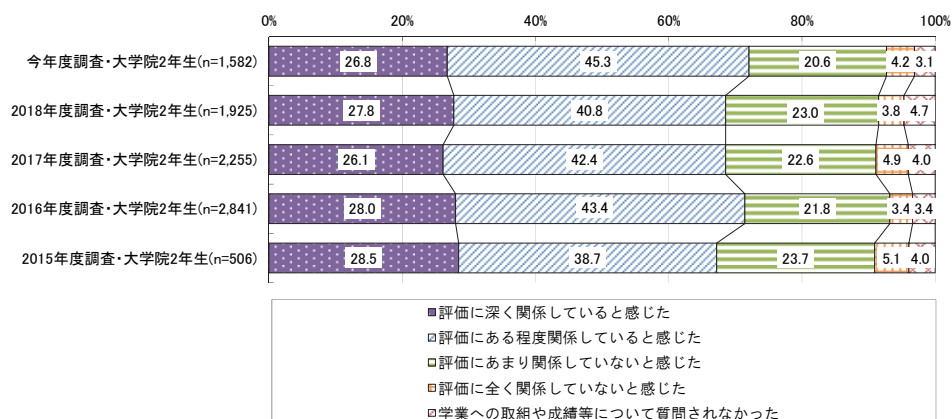
図表 4-2-1 採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



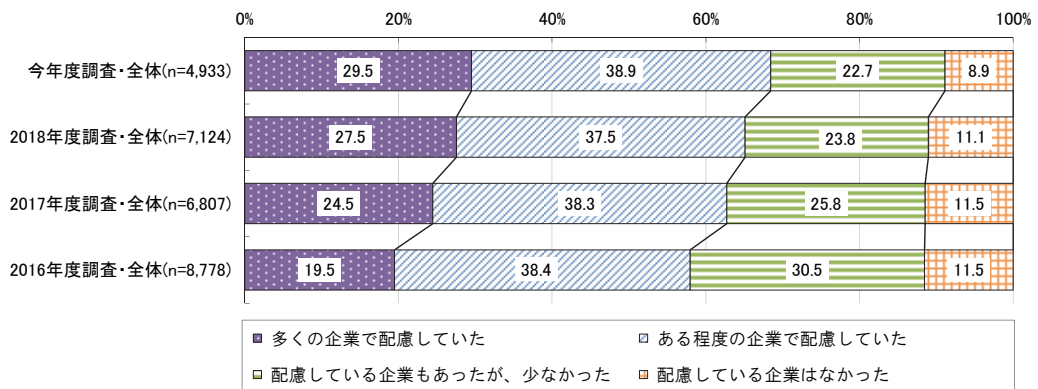
(3) 就職活動の日程・時間帯等に関する配慮

①説明会や面接等の日程・時間帯等についての配慮

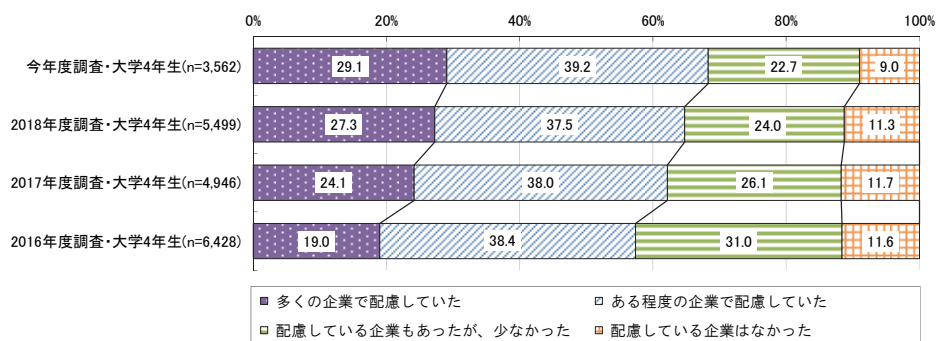
就職活動を行った企業において、「説明会や面接等の日程・時間帯等について配慮があったか」について、「よくわからない」との回答を除くと⁶⁸、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約7割となっている。

2016年度調査～2018年度調査と比較すると、今年度調査では「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は若干上昇している⁶⁹。

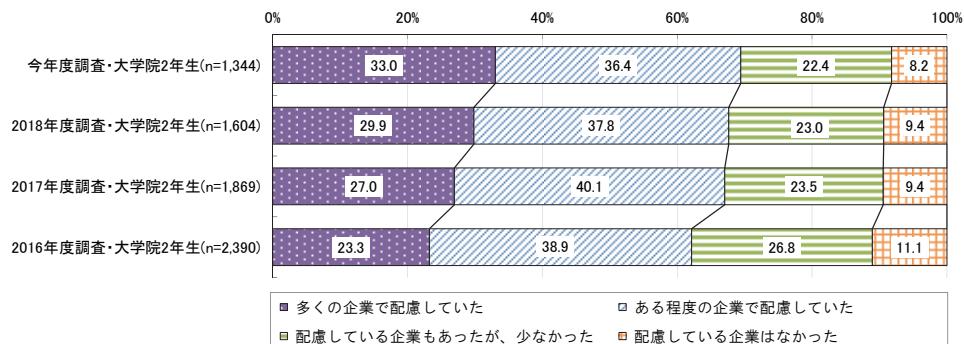
図表 4-3-1 説明会や面接等の日程・時間帯等についての配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁶⁸ 就職活動を行った企業について、「説明会や面接等の日程・時間帯等について、就職活動が授業・試験等の妨げにならないよう、時間の設定などの配慮をしていましたか」という設問への回答で、「就職活動最優先で活動していたため、よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

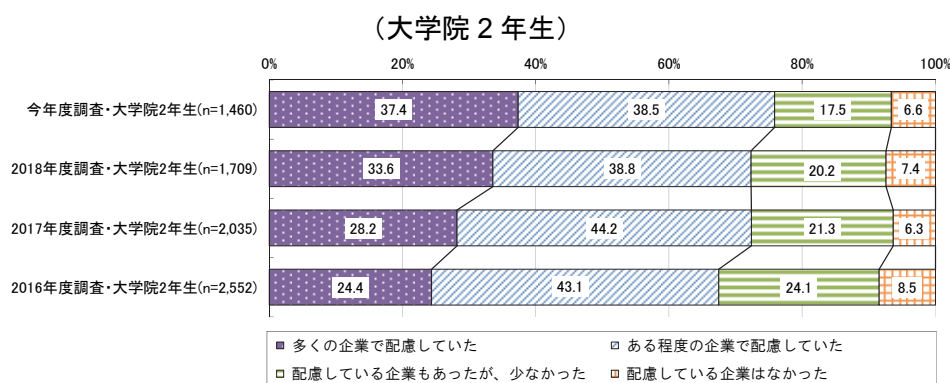
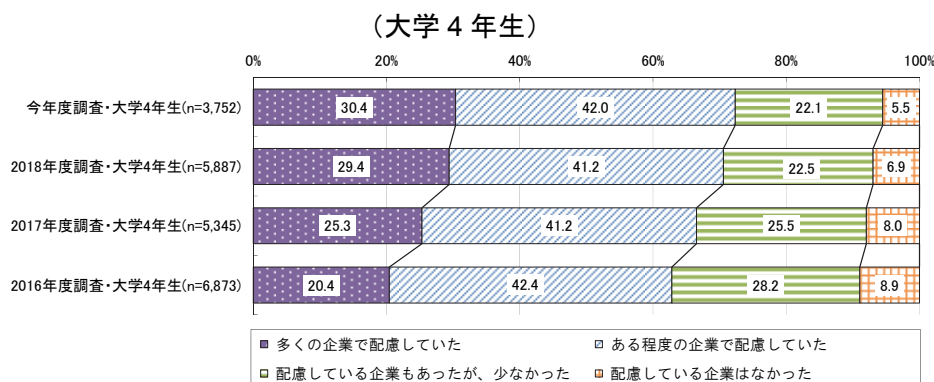
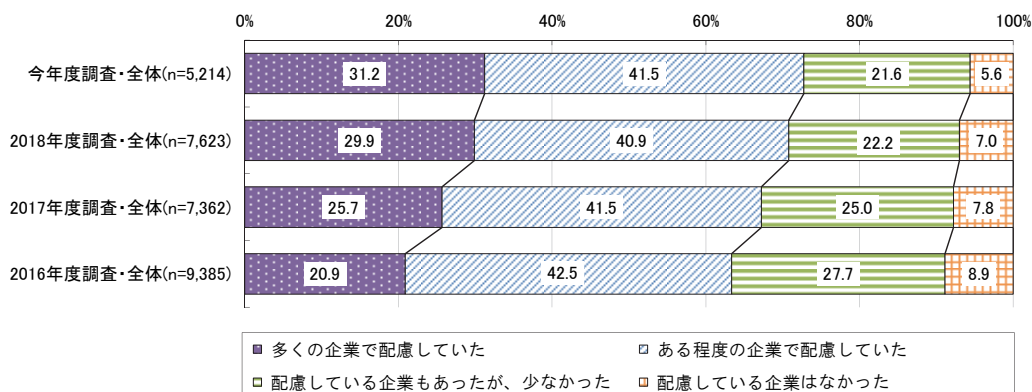
⁶⁹ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

②個別の面接日時等の設定にあたっての配慮

就職活動を行った企業において、「個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったか」について、「よくわからない」との回答を除くと⁷⁰、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約7割となっている。

2016年度調査～2018年度調査と比較すると、今年度調査では「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は若干上昇している⁷¹。

図表 4-3-2 個別の面接日時等の設定にあたっての配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



⁷⁰ 就職活動を行った企業について、「個別の面接日時等の設定に当たり、就職活動が授業・試験等の妨げにならないよう、連絡が余裕をもって行われたり、土日や平日夕方などの対応があったり、日程の候補が複数提示されたり、学生の要望を聞いたりするなどの配慮がありましたか」という設問への回答で、「就職活動最優先で活動していたため、よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

⁷¹ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

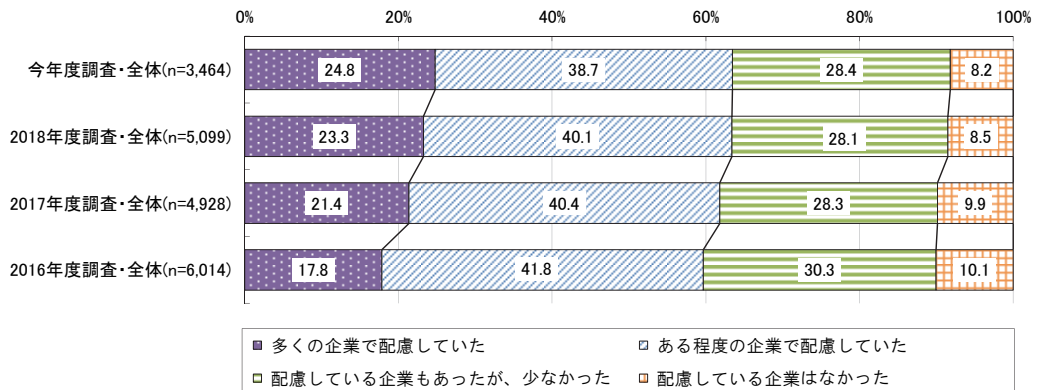
(4) 遠隔地への就職活動への配慮

地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮があったかについて、「よくわからない」と回答した者を除くと⁷²、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約6割となっている。

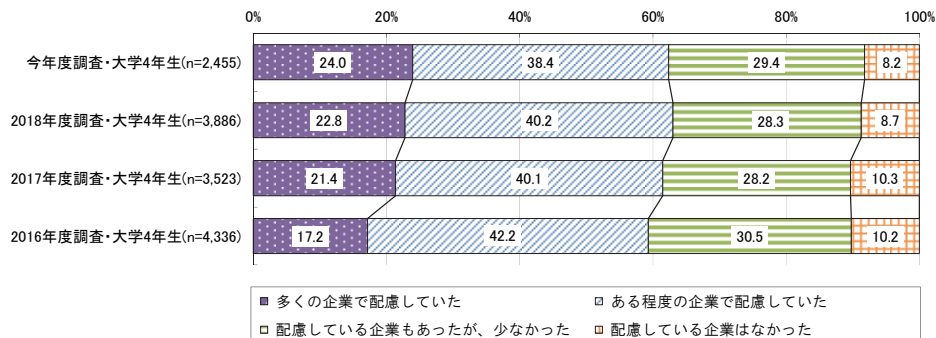
これは2018年度調査と概ね同様の結果である。

図表 4-4-1 遠隔地への就職活動に際する企業側からの配慮の状況⁷³

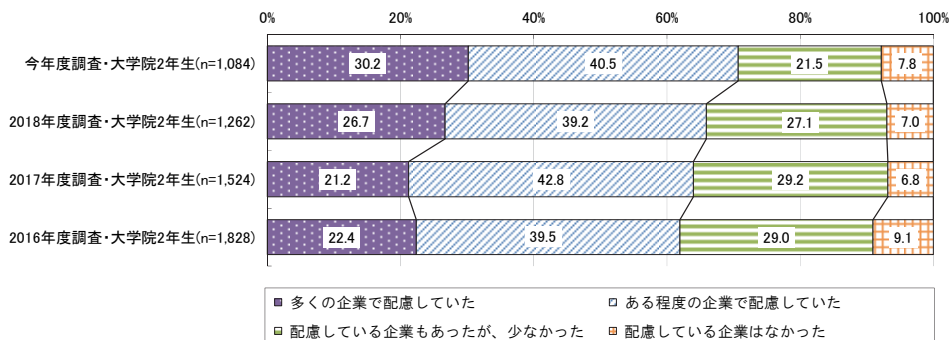
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁷² 「地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮がありましたか」という設問への回答で、「自身が該当しないため、よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

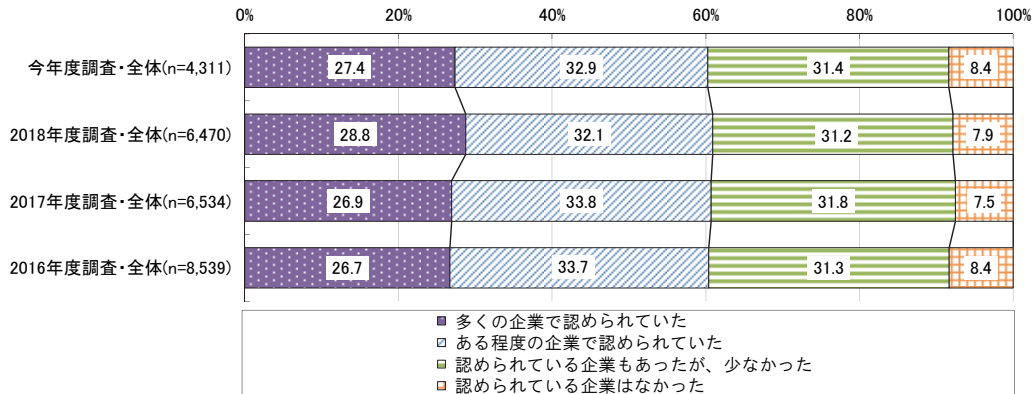
⁷³ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

(5) クールビズでの対応

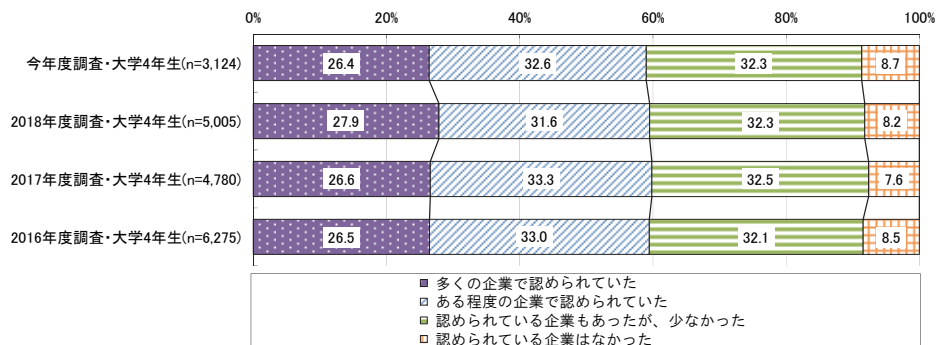
面接の実施にあたり、クールビズでの対応が認められていたかについて、「わからない」との回答を除くと⁷⁴、「多くの企業で認められていた」と「ある程度の企業で認められていた」を合わせた回答割合は約6割となっている。

これは、2016年度調査～2018年度調査と概ね同様の結果である⁷⁵。

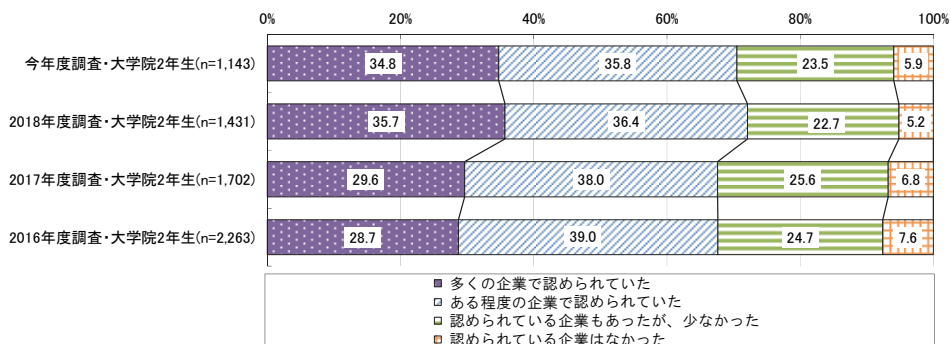
図表 4-5-1 面接の実施におけるクールビズでの対応の状況
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



⁷⁴ 「面接の実施等にあたり、クールビズでの対応が認められていましたか」という設問への回答で、「暑い時期に就職活動を行っていない」「わからない」と回答した者は除いて集計した。

⁷⁵ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

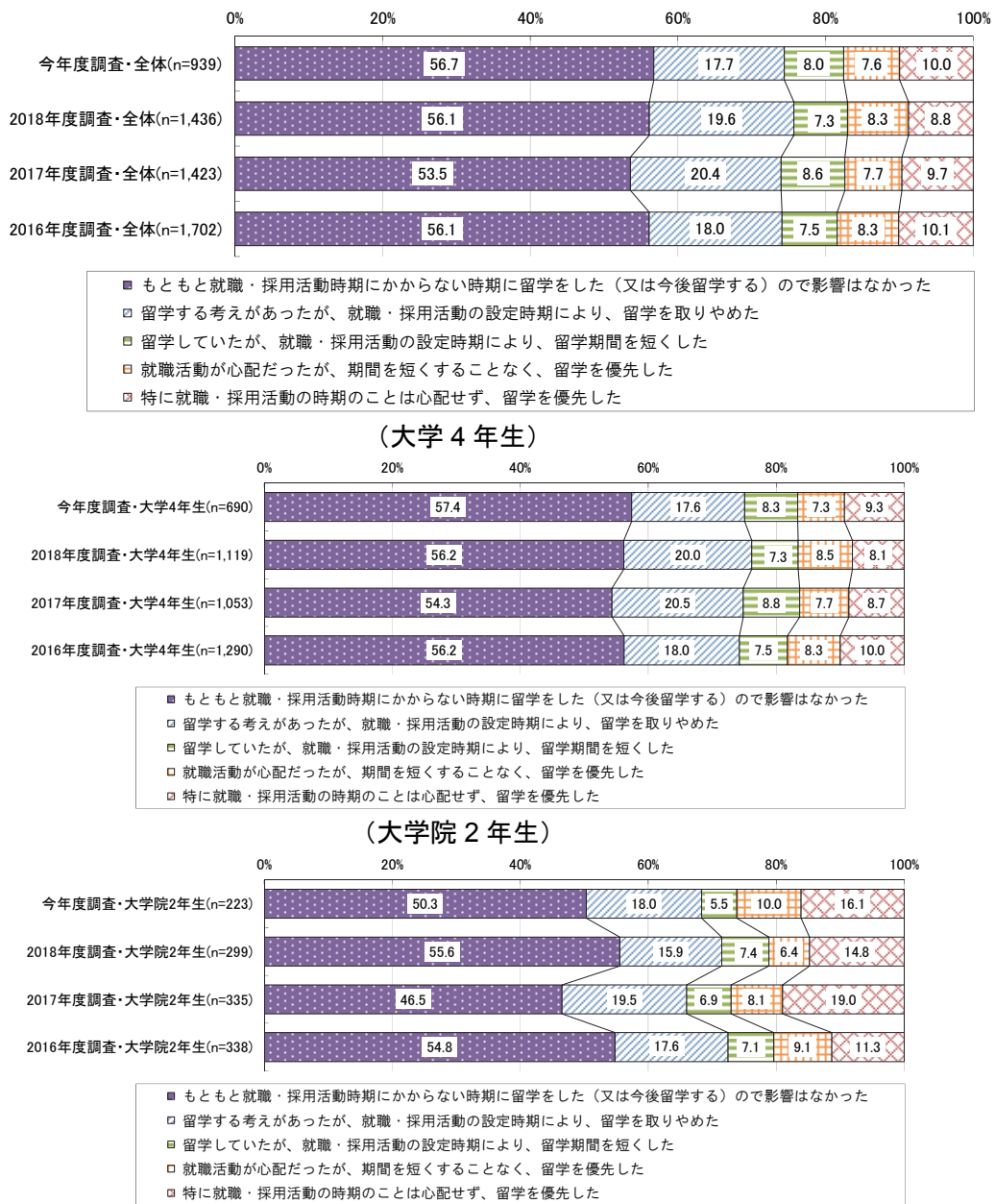
(6) 留学経験者等への配慮

① 留学経験者及び留学を検討していた者の状況

就職・採用活動の設定時期により留学の予定等に影響があったかについて、留学経験者及び留学を検討していた者のうち76、約6割が「もともと就職・採用活動時期にかからない時期に留学をした（又は今後留学する）ので影響はなかった」と回答している。一方、約2割は「留学する考えがあったが、就職・採用活動の設定時期により、留学を取りやめた」と回答している。

これは、2016年度調査～2018年度調査と概ね同様の結果である⁷⁷。

図表 4-6-1 留学経験者及び留学を検討していた者の状況
(大学4年生・大学院2年生)



⁷⁶ 「就職・採用活動の設定時期（広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降に開始）により、留学の予定等に影響はありましたか」という設問への回答で、「もともと留学する予定はなく、留学はしていない」と回答した者を除いて集計した。

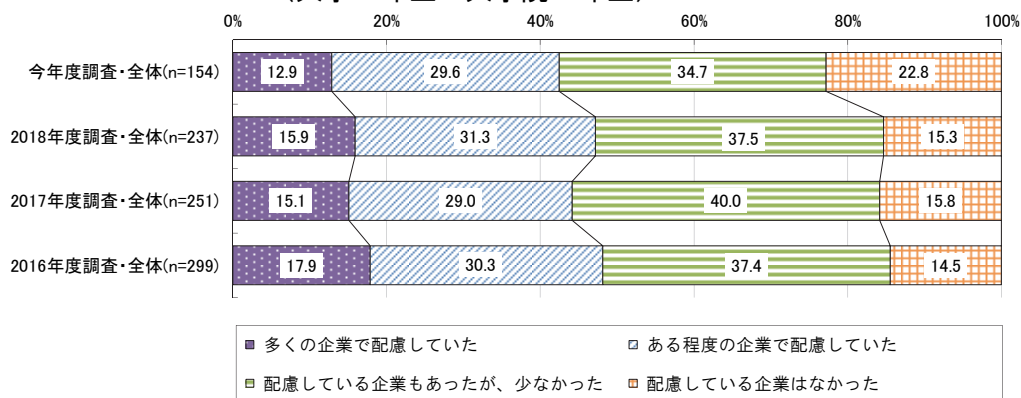
⁷⁷ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

②企業側から留学経験者に対する配慮の状況

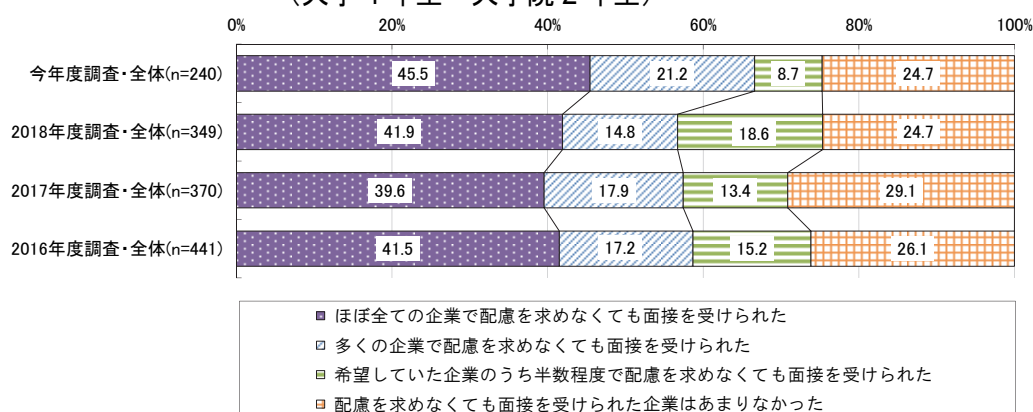
就職・採用活動期間中に留学を実際に行っていた者⁷⁸に対して、就職を希望した企業において、留学経験者が不利にならないよう留学経験者向けのスケジュールや情報を別途示すなど配慮があったかについて、「わからない」との回答を除くと⁷⁹、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合が約4割となっている⁸⁰。2016年度調査～2018年度調査と比較すると、これらの割合は今年度調査では若干低下している。

また、就職を希望していた企業のうち、面接の時期が留学と重なっていなかった、又は留学経験者のための別日程が示されていたため、配慮を求めなくても面接を受けられた企業がどれくらいあったかについては、「ほぼ全ての企業で配慮を求めなくても面接を受けられた」との回答割合が約5割となっているが、「配慮を求めなくても面接を受けられた企業はあまりなかった」との回答割合も比較的高くなっている。なお、この「配慮を求めなくても面接を受けられた企業はあまりなかった」との回答割合は、2016年度調査～2018年度調査と概ね同様の結果となっている。

図表 4-6-2 留学経験者に対する企業側の配慮の状況
(大学4年生・大学院2年生)



図表 4-6-3 留学経験者が配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況
(大学4年生・大学院2年生)



⁷⁸ 「留学していたが、就職・採用活動の設定時期により、留学期間を短くした」「就職活動が心配だったが、期間を短くすることなく、留学を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、留学を優先した」と回答した者について集計した。なお、留学経験者に関する各設問について、2015年度調査では実施していない。

⁷⁹ 「あなたが就職を希望した企業は、企業側から留学経験者向けのスケジュール・情報を別途示すなど、留学により不利にならないように配慮していましたか」という設問への回答で、「留学経験者であることを特に意識せず就職活動を行ったため、わからない」と回答した者は除いて集計した。

⁸⁰ 留学経験者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した結果のみ参照した。

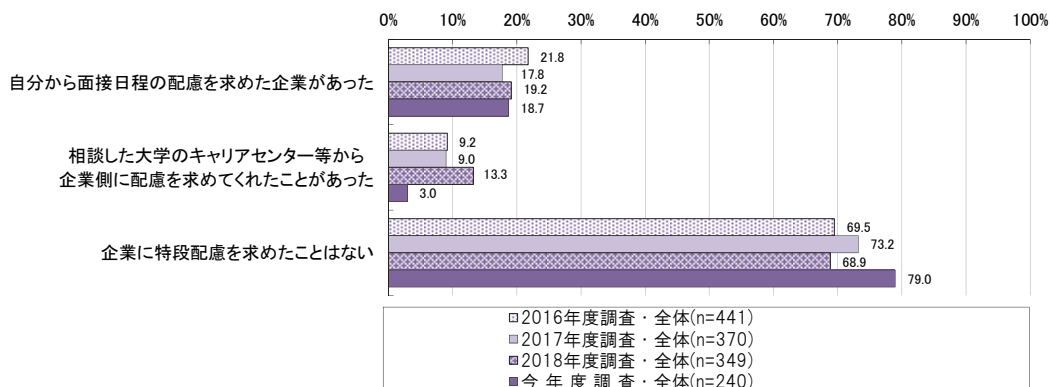
③留学経験者が企業側へ配慮を求めた際の対応等

留学と採用選考の時期が重なることで、就職を希望した企業に対して面接日程の配慮を求めたことがあったかについて、「自分から面接日程の配慮を求めた企業があった」との回答が約 2 割、「相談した大学のキャリアセンター等から企業側に配慮を求めてくれたことがあった」との回答が 1 割未満となっている⁸¹。

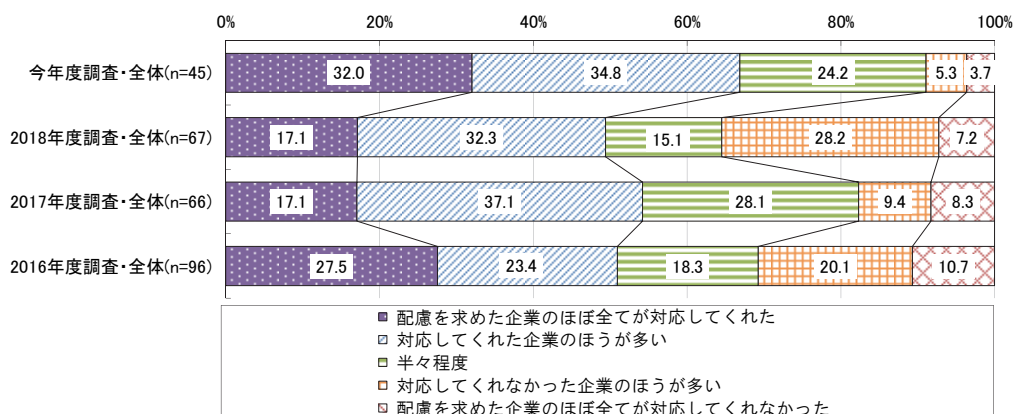
自分から配慮を求めた場合の企業側の対応状況について⁸²、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」と「対応してくれた企業のほうが多い」を合わせた回答割合は約 7 割となっている。2016 年度調査～2018 年度調査と比較して、今年度はこの割合が高くなっている。

また、就職を希望していた企業のうち、企業側に面接日程についての配慮を求めることをはせず、結果として留学と日程が重なり面接を諦めた企業がどのくらいあったかについては、「ほぼ全ての企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」と「多くの企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」を合わせた回答割合が約 2 割となっている。

図表 4-6-4 留学経験者が就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったか
(複数回答、大学 4 年生・大学院 2 年生)



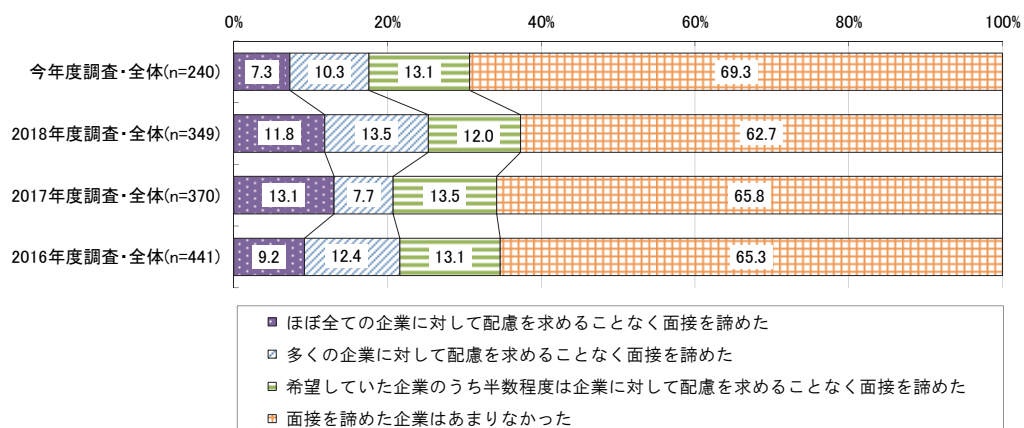
図表 4-6-5 留学経験者が配慮を求めた場合の企業の対応 (自分から配慮を求めた場合)
(大学 4 年生・大学院 2 年生)



⁸¹ 留学経験者に関する各設問について、「留学していたが、就職・採用活動の設定時期により、留学期間を短くした」「就職活動が心配だったが、期間を短くすることなく、留学を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、留学を優先した」と回答した者について集計した。なお、留学経験者に関する設問について、2015 年度調査では実施していない。

⁸² 大学のキャリアセンター等から配慮を求めた場合に関しては、集計対象の件数が非常に少ないことから集計結果を掲載しなかった。

図表 4-6-6 留学経験者が企業に配慮を求めず、結果的に面接を諦めた企業の状況
(大学4年生・大学院2年生)



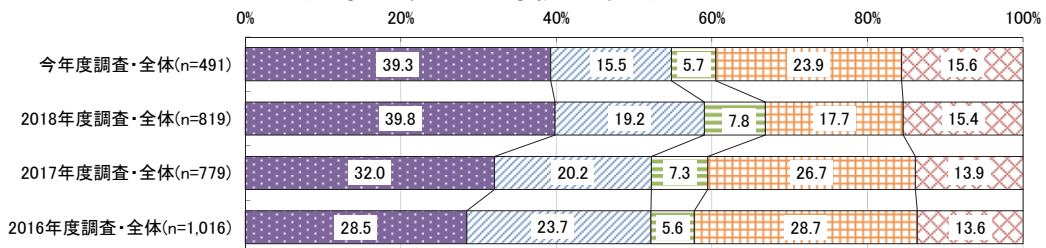
(7) 教育実習受講者への配慮

①教育実習受講者及び教育実習受講を検討していた者の状況

就職・採用活動の設定時期により教育実習の予定等に影響があったかについて、教育実習受講者及び教育実習受講を検討していた者のうち⁸³、「もともと就職・採用活動時期にかからない時期に教育実習をした（又は今後行う）ので影響がなかった」との回答割合が約4割となっている。他方、約2割が「教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を取りやめた」と回答している。

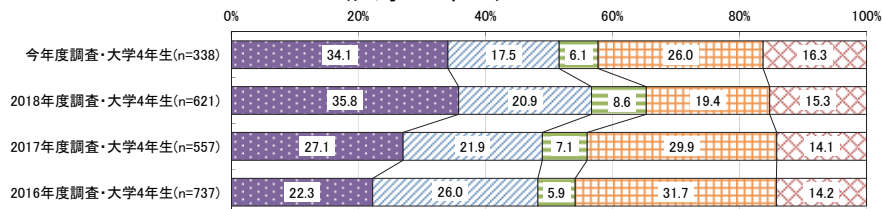
今年度調査の「もともと就職・採用活動時期にかからない時期に教育実習をした（又は今後行う）ので影響がなかった」との回答割合は、2018年度調査と概ね同様の結果となっている⁸⁴。

図表 4-7-1 教育実習受講者及び教育実習受講を検討していた者の状況
(大学4年生・大学院2年生)



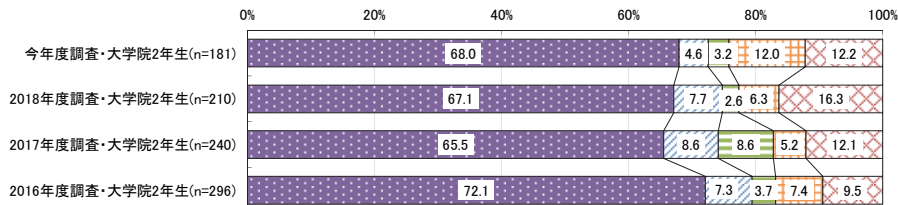
- もともと就職・採用活動時期にかからない時期に教育実習をした（又は今後行う）ので影響がなかった
- 教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を取りやめた
- 教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を延期した
- 就職活動が心配だったが、教育実習を優先した
- 特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、教育実習を優先した

(大学4年生)



- もともと就職・採用活動時期にかからない時期に教育実習をした（又は今後行う）ので影響がなかった
- 教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を取りやめた
- 教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を延期した
- 就職活動が心配だったが、教育実習を優先した
- 特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、教育実習を優先した

(大学院2年生)



- もともと就職・採用活動時期にかからない時期に教育実習をした（又は今後行う）ので影響がなかった
- 教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を取りやめた
- 教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を延期した
- 就職活動が心配だったが、教育実習を優先した
- 特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、教育実習を優先した

⁸³ 「就職・採用活動の設定時期（広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降に開始）により、4年生または大学院2年生の前期における教育実習の予定等に影響はありましたか」との設問への回答で、「もともと教育実習を考えておらず、教育実習を受けていない」と回答した者は除いて集計した。

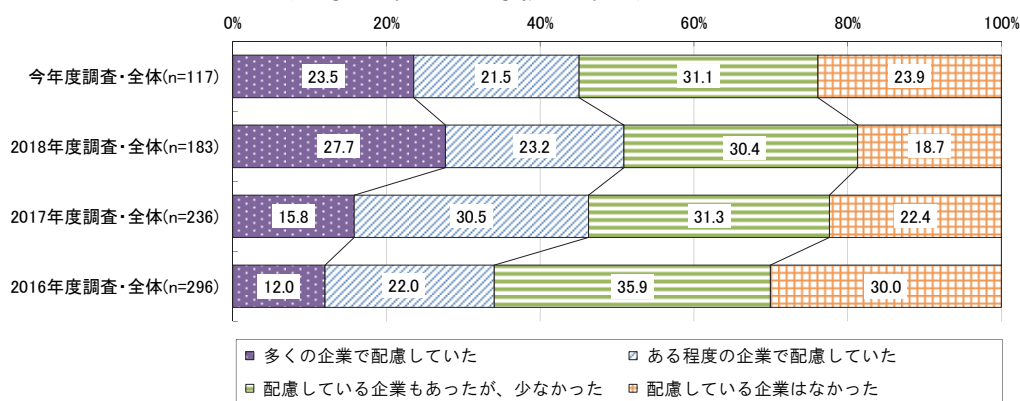
⁸⁴ 2015年度調査では当該設問について調査を実施していない。

②企業側から教育実習受講者への配慮の状況

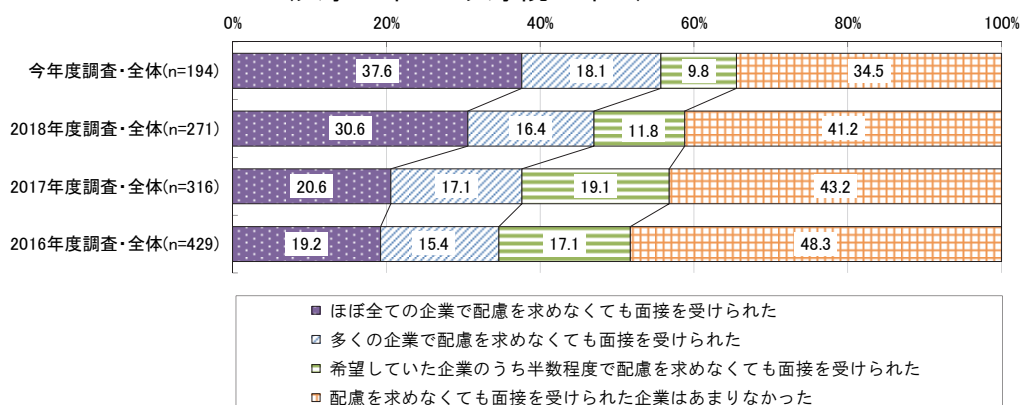
就職・採用活動期間中に実際に教育実習を受けていた者⁸⁵に対して、就職を希望した企業において、就職活動が教育実習の妨げにならないよう、説明会や面接等の日程・時間帯等に配慮があったかについて、「わからない」との回答を除くと⁸⁶、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」とを合わせた回答割合が約 5 割となっている⁸⁷。2018 年度調査と比較すると、今年度調査ではこの割合が若干低下している。

また、就職を希望していた企業のうち、面接の時期が教育実習と重なっていなかった、又は教育実習受講者等のための別日程が示されていたため、配慮を求めなくても面接を受けられた企業がどれくらいあったかについては、「ほぼ全ての企業で配慮を求めなくても面接を受けられた」との回答が約 4 割となっている。2016 年度調査～2018 年度調査と比較すると、今年度調査ではこの割合が高くなっている。

図表 4-7-2 教育実習受講者に対する企業側の配慮の状況
(大学 4 年生・大学院 2 年生)



図表 4-7-3 教育実習受講者が配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況
(大学 4 年生・大学院 2 年生)



⁸⁵ 「就職活動が心配だったが、教育実習を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、教育実習を優先した」と回答した者について集計した。なお、教育実習受講者に関する各設問について、2015 年度調査では実施していない。

⁸⁶ 「あなたが就職を希望した企業は、就職活動が教育実習の妨げにならないよう、説明会や面接等の日程・時間帯等に配慮していましたか」という設問への回答で、「教育実習期間中に就職活動を行っていないため、わからない」と回答した者は除いて集計した。

⁸⁷ 教育実習受講者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学 4 年生・大学院 2 年生について合わせて集計した結果のみ参照した。

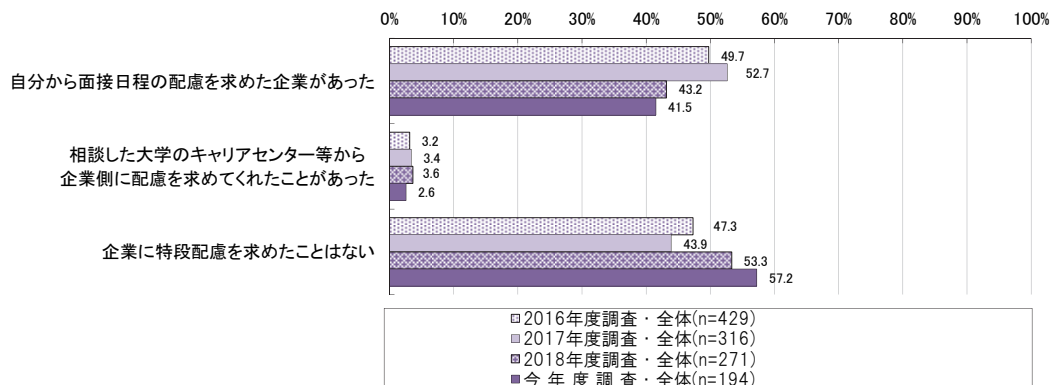
③教育実習受講者が企業側へ配慮を求めた際の対応等

教育実習と採用選考の時期が重なることで、就職を希望した企業に対して面接日程の配慮を求めたことがあったかについて、「自分から面接日程の配慮を求めた企業があった」との回答が約4割となっている⁸⁸。

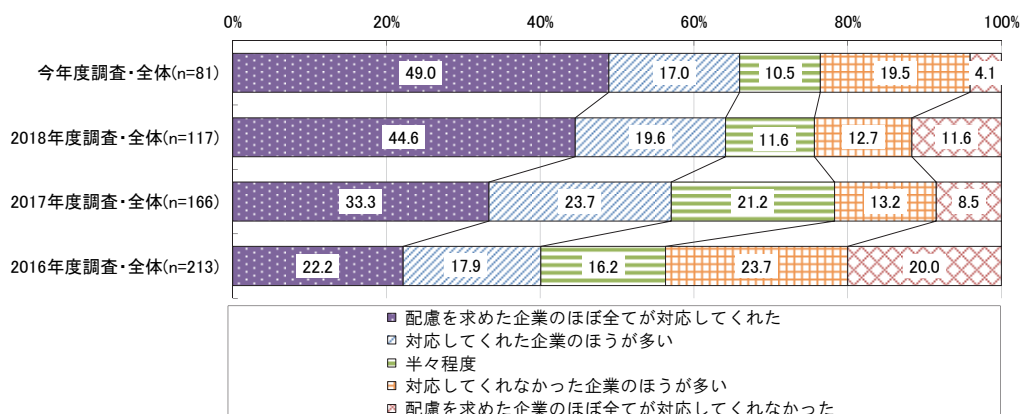
自分から配慮を求めた場合の企業側の対応状況についてたずねたところ⁸⁹、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」と「対応してくれた企業のほうが多い」を合わせた回答割合は約7割となっている。2016年度調査～2018年度調査と比較して、今年度調査はこの割合が若干高くなっている。

また、就職を希望していた企業のうち、企業側に面接日程についての配慮を求めることはせず、結果として教育実習と日程が重なり面接を諦めた企業がどのくらいあったかについては、「ほぼ全ての企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」と「多くの企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」を合わせた回答割合が約2割となっている。2018年度調査と比較すると、今年度調査はこの割合が若干高くなっている。

図表 4-7-4 教育実習受講者が就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったか（複数回答、大学4年生・大学院2年生）



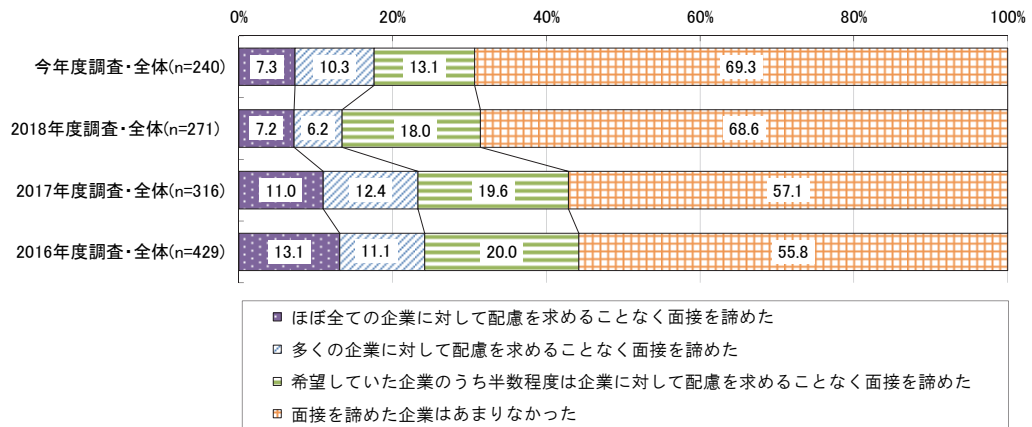
図表 4-7-5 教育実習受講者が配慮を求めた場合の企業の対応（自分から配慮を求めた場合）（大学4年生・大学院2年生）



⁸⁸ 教育実習受講者に関する各設問について、「就職活動が心配だったが、教育実習を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、教育実習を優先した」と回答した者について集計した。なお、教育実習受講者に関する各設問について、2015年度調査では実施していない。

⁸⁹ 大学のキャリアセンター等から配慮を求めた場合に関しては、集計対象の件数が非常に少ないことから集計結果を掲載しなかった。

図表 4-7-6 教育実習受講者が企業に配慮を求めず、結果的に面接を諦めた企業の状況
(大学4年生・大学院2年生)



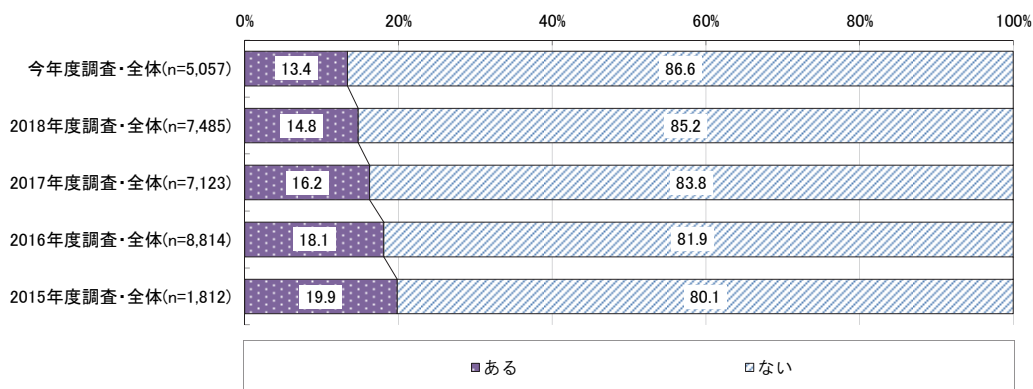
(8) 「オワハラ」の状況

① 「オワハラ」の有無

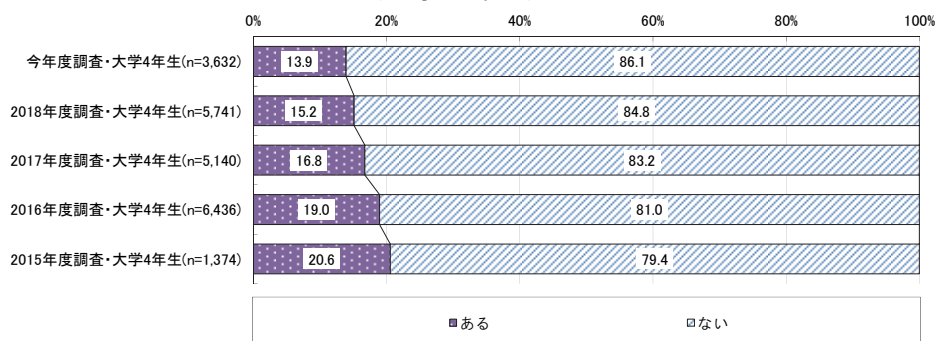
企業等から、他の企業等への就職活動の終了を強要するハラスメント的な行為（いわゆる「オワハラ」）を受けたことがあるかについて⁹⁰、約1割の者が「ある」と回答している。

2015年度調査～2018年度調査と比較すると、今年度調査では「ある」の回答割合が若干低下している。

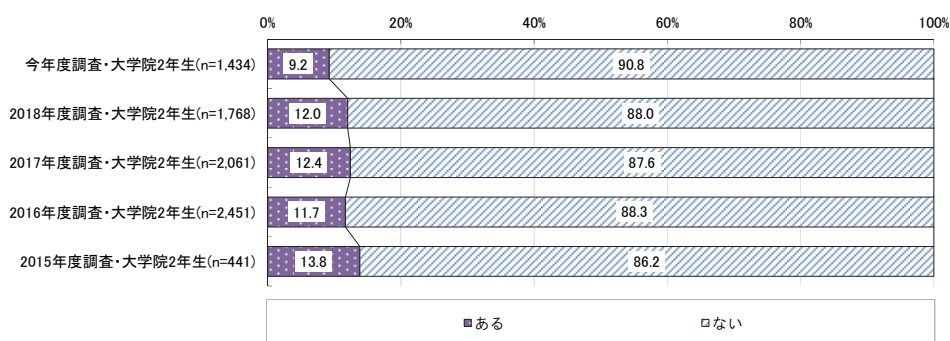
図表 4-8-1 企業から「オワハラ」を受けた経験の有無
(大学4年生・大学院2年生)



(大学4年生)



(大学院2年生)



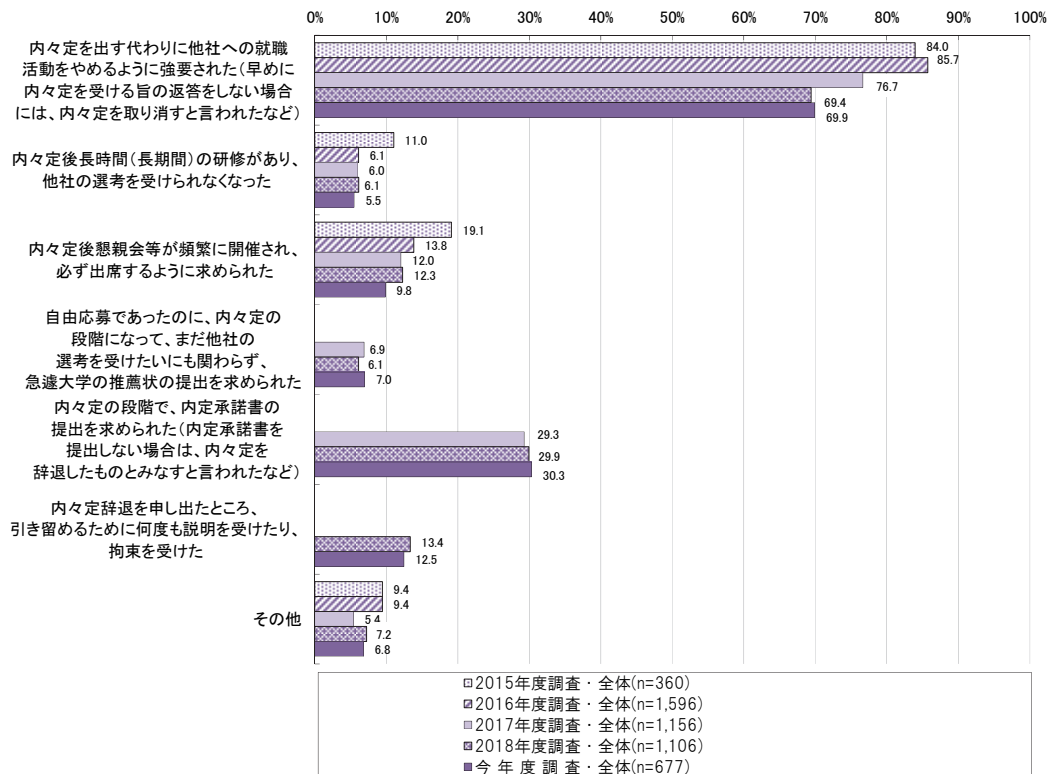
⁹⁰ 内々定を1社以上から受けた者を集計の対象とした。

②「オワハラ」の内容

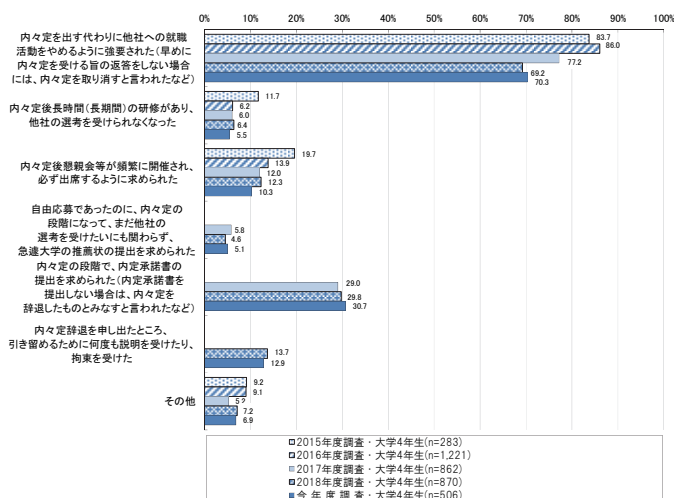
企業等からの「オワハラ」で、どのような行為を受けたかについては、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された（早めに内々定を受ける旨の返答をしない場合には、内々定を取り消すと言われたなど）⁹¹」との回答割合が約7割となっている。次いで、「内々定の段階で、内定承諾書の提出を求められた（内定承諾書を提出しない場合は、内々定を辞退したものとみなすと言われたなど）」との回答割合が約3割となっている。

図表 4-8-2 「オワハラ」の内容（複数回答）

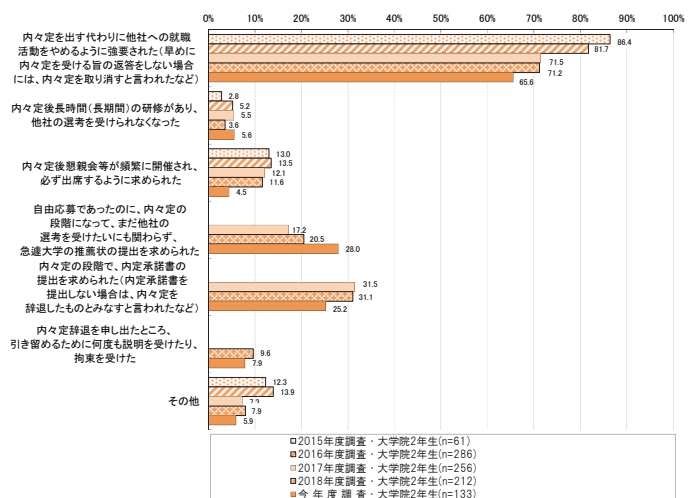
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）



（大学院2年生）



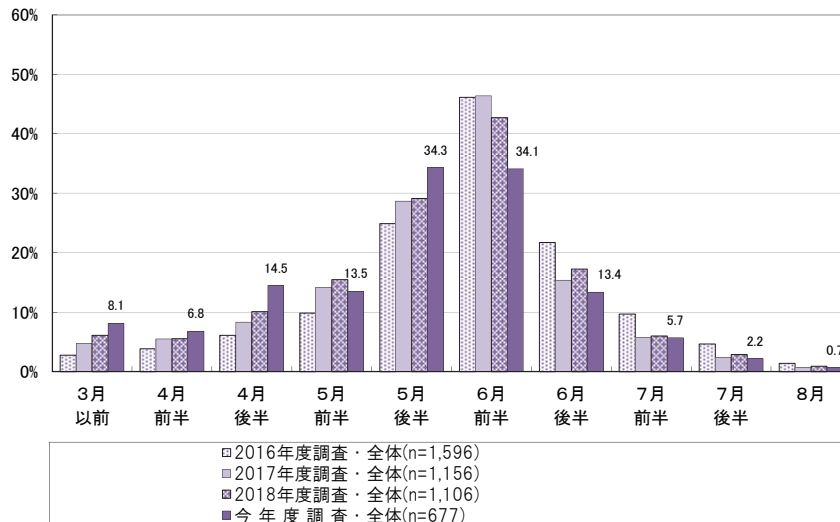
⁹¹ 2015年度調査～2018年度調査では「早めに内々定を受ける旨の返答をしない場合には、内々定を取り消すと言われたなど」の例示はせず単に「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」の項目で調査を実施している。

③「オワハラ」があった時期

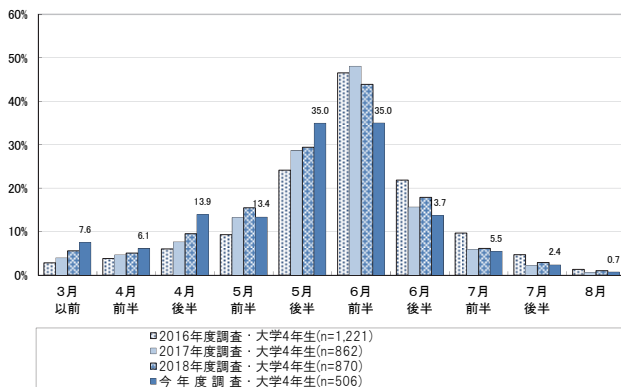
「オワハラ」を受けた時期について、「5月後半」と「6月前半」の回答割合がそれぞれ約3割となっている。

2016年度調査～2018年度調査と比較すると、今年度調査では「5月後半」の回答割合が高く、「6月前半」の回答割合が低下している。また、「4月後半」など、より早期の回答割合も若干高くなっている⁹²。

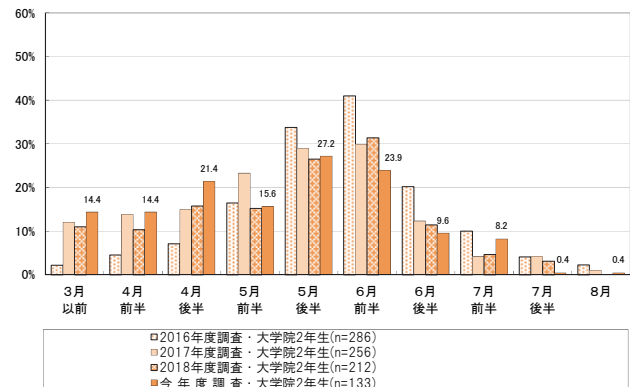
図表 4-8-3 「オワハラ」を受けた時期（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）



（大学院2年生）



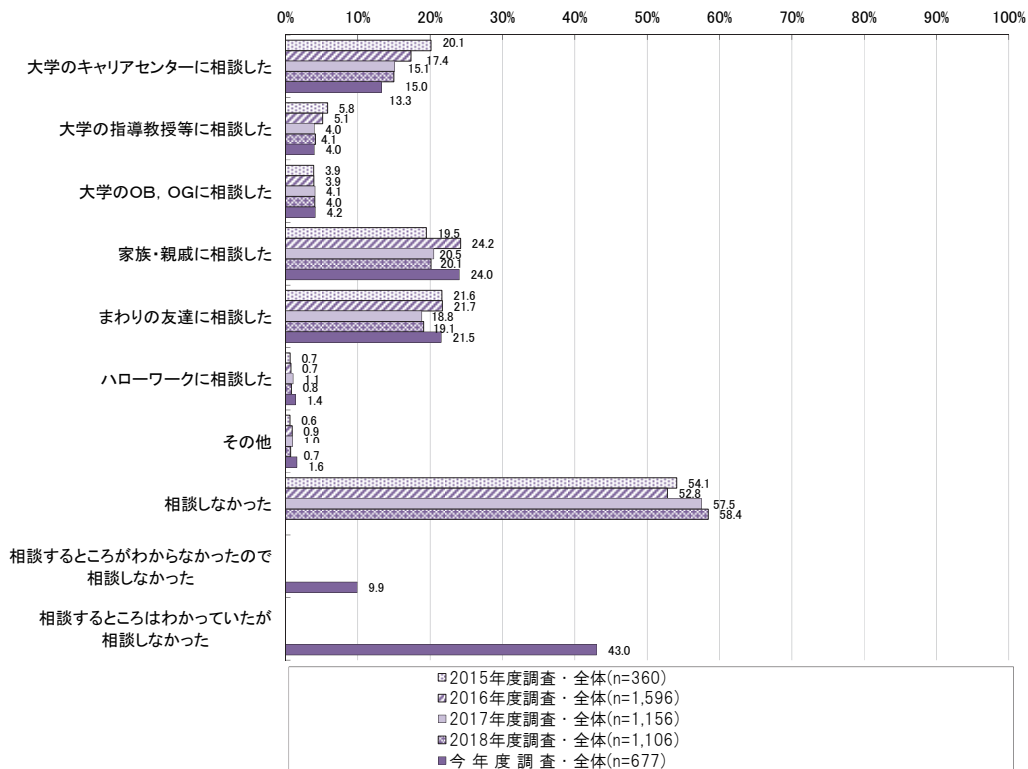
⁹² 2015年度調査でもハラスメント的な行為を受けた時期に関する設問の調査をしているが、選択肢として設定している時期が他の年度の調査とは異なることから、ここでは比較の対象としなかった。

④「オワハラ」への対応

「オワハラ」を受けた際の対応について、「家族・親戚に相談した」と「まわりの友達に相談した」との回答がそれぞれ約2割となっている。これは、2015年度調査～2018年度調査と概ね同様の結果である。

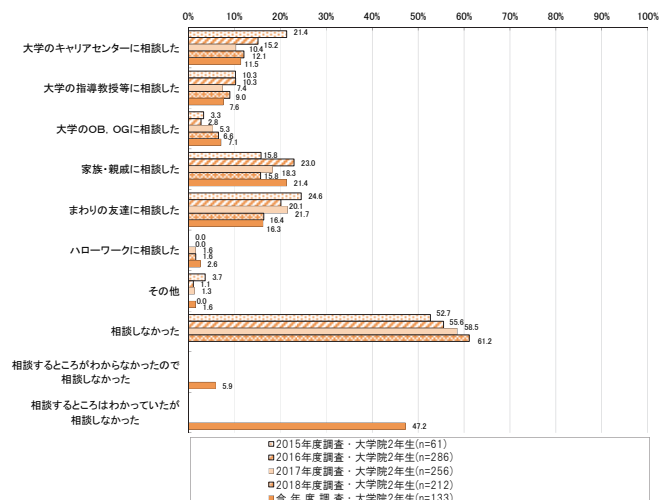
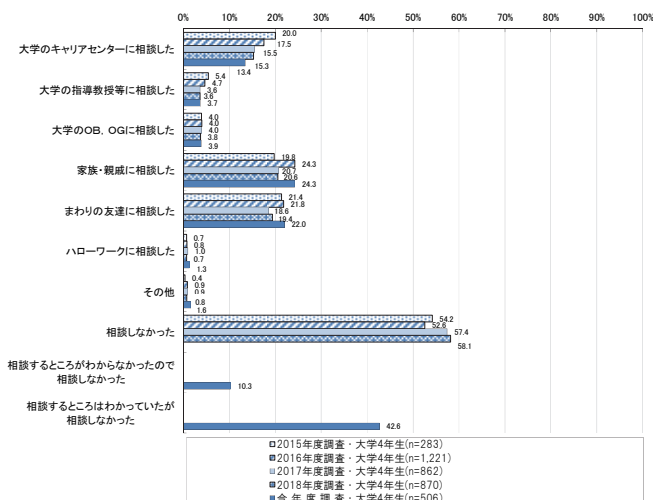
なお、「相談しなかった」との回答については、「相談するところがわからなかったので相談しなかった」が全体の約1割、「相談するところはわかっていたが相談しなかった」が約4割となっている⁹³。

図表 4-8-4 「オワハラ」を受けた際の対応（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



（大学4年生）

（大学院2年生）



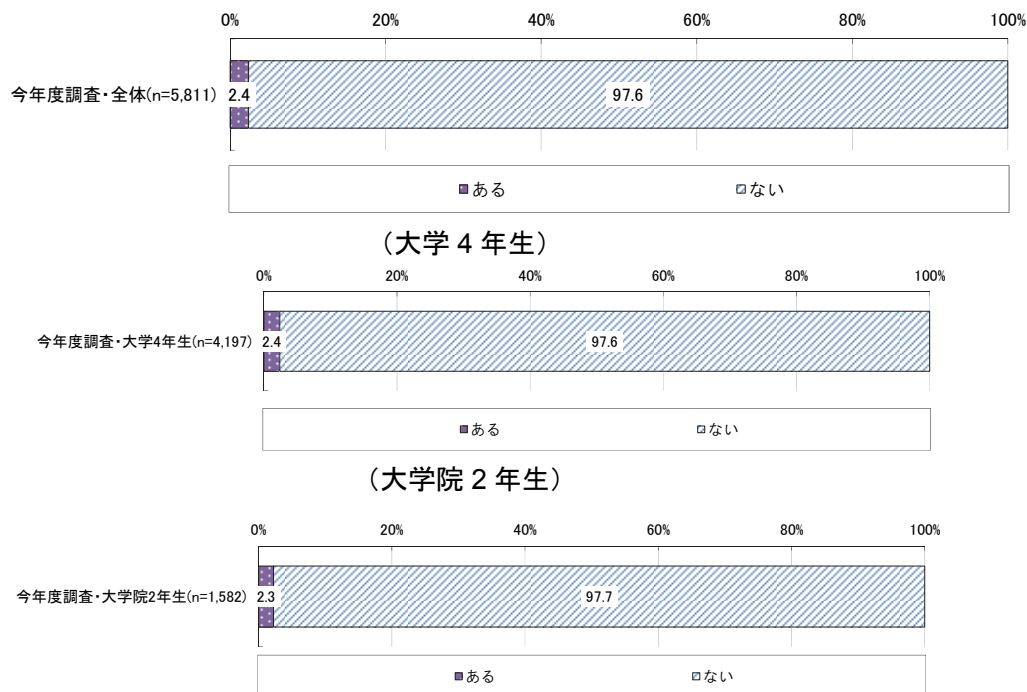
⁹³ 2015年度調査～2018年度調査では単に「相談しなかった」という項目で調査していたものを、今年度調査ではその理由も含めた形で選択肢を変更して調査を行った。

(9) セクシュアルハラスメントの状況

①セクシュアルハラスメント行為の有無

就職活動の過程において、セクシュアルハラスメント行為を受けたことがあるかについて、「ある」の回答割合は約 2%であった⁹⁴。

図表 4-9-1 セクシュアルハラスメント行為を受けた経験の有無
(大学4年生・大学院2年生)

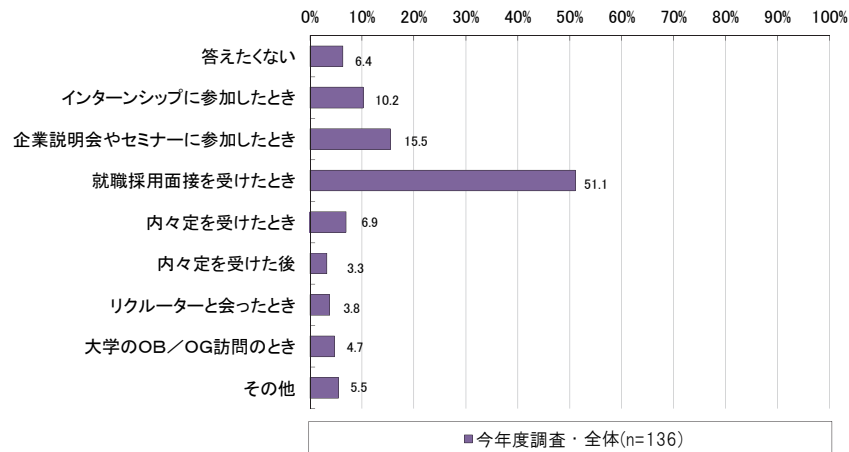


⁹⁴ 2015年度調査～2018年度調査では当該設問について調査を実施していない。(以降のセクシュアルハラスメント行為に関する各設問についても同様)

②セクシュアルハラスメント行為を受けたタイミング

セクシュアルハラスメント行為を受けたタイミングとしては⁹⁵、「就職採用面接を受けたとき」の回答が約5割、「企業説明会やセミナーに参加したとき」が約2割となっている。

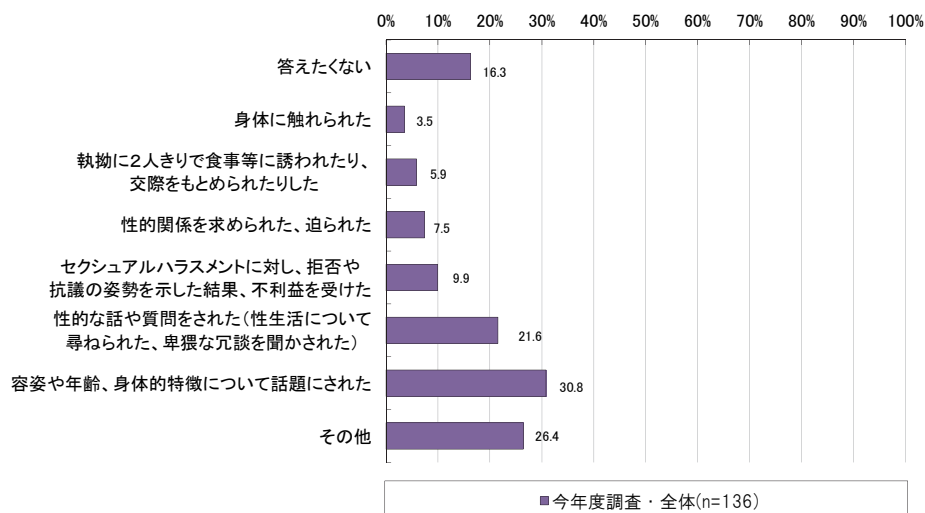
図表 4-9-2 セクシュアルハラスメント行為を受けたタイミング（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）



③セクシュアルハラスメント行為の内容

どのようなセクシュアルハラスメント行為を受けたかについて、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にされた」が約3割、「性的な話や質問をされた（性生活について尋ねられた、卑猥な冗談を聞かされた）」が約2割となっている。また、「その他」の回答も約3割となっている。

図表 4-9-3 セクシュアルハラスメント行為の内容（複数回答）
（大学4年生・大学院2年生）

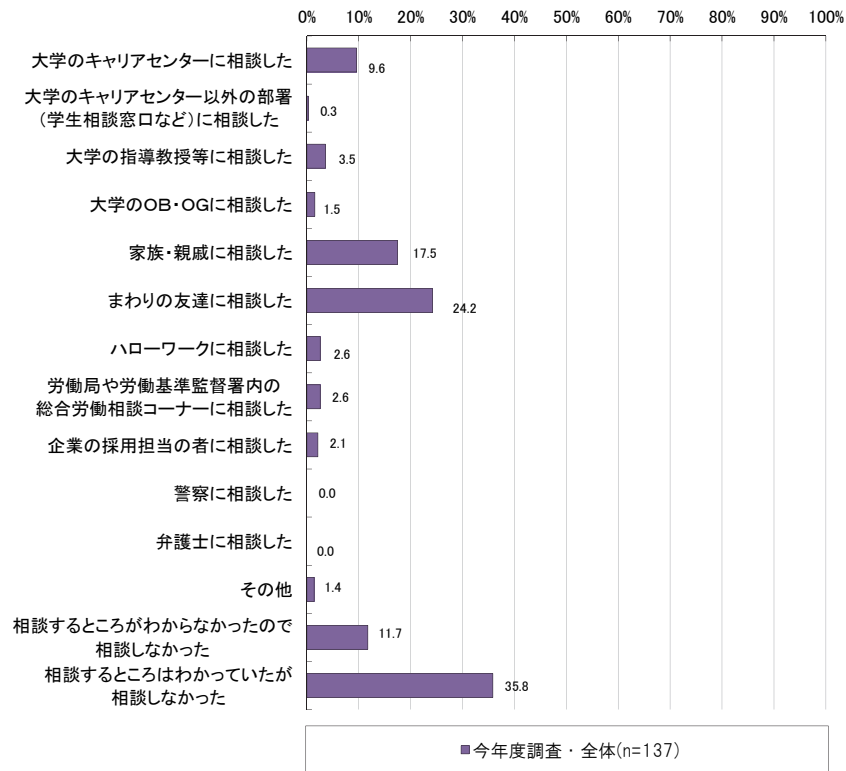


⁹⁵ 以降の設定に関しては、セクシュアルハラスメント行為を受けたことがあると回答した者を調査・集計の対象とした。「答えたくない」との選択肢も設けた上で、差し支えない範囲で回答していただいた（当該調査項目に回答しなくても調査終了とすることを可能とした）。なお、回答数が多くないことから、大学4年生・大学院2年生を合わせて集計した結果のみ掲載した。

④セクシュアルハラスメント行為に関する相談

セクシュアルハラスメント行為に関し相談したことがあるかについて、「相談するところはわかっていたが相談しなかった」が約 4 割、「相談するところがわからなかったので相談しなかった」が約 1 割となっている。相談先としては、「まわりの友達に相談した」と「家族・親戚に相談した」がそれぞれ約 2 割となっている。

図表 4-9-4 セクシュアルハラスメント行為に関する相談（複数回答）
（大学 4 年生・大学院 2 年生）



⑤セクシュアルハラスメント行為に関する相談への対応

セクシュアルハラスメント行為を相談した際の対応について、「解決策・対応策は示してくれなかったが、親身に相談に乗ってくれた」が約 6 割、「事態の解決に向けて企業に働きかけてくれたり対応策について助言してくれたりした」が約 4 割となっている。

図表 4-9-5 セクシュアルハラスメント行為に関する相談への対応（複数回答）
（大学 4 年生・大学院 2 年生）

